

「心」あるまち大阪の実現をめざして
- 良心の循環が世界を変える -



Annual Report 2013

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA

The Creed of Junior Chamber International We Believe : That faith in God gives meaning and purpose to human life;That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;That economic justice can best be won by free men through free enterprise;That government should be of laws rather than of men;That earth's great treasure lies in human personality:and That service to humanity is the best work of life.

Annual Report

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL OSAKA

2013



Contents

- 02 青年会議所とは
- 04 理事長所信
- 06 2013年度組織図 & 各委員会の事業名
- 08 理事長あいさつ
- 09 直前理事長あいさつ
- 10 役員あいさつ
- 14 2013年度 JCI 大阪の活動
- 19 全体事業 /OSAKA キャッスル☆ハッスル 2013
- 23 会員開発委員会
- 26 JCI 大阪発信委員会
- 29 子どもの「心」育成室
- 30 子どもの未来創造委員会
- 33 子どもの良心育成委員会
- 36 親子の「心」育成委員会
- 39 まちの「心」創造室
- 40 まちの良心循環委員会
- 43 まちの連携推進委員会
- 46 世界の大坂創造室
- 47 世界の良心循環委員会
- 50 大阪の未来創造委員会
- 53 渉外室
- 54 国内渉外委員会
- 57 国際渉外委員会
- 60 総務室
- 61 資質向上委員会
- 64 総務財政委員会
- 67 月例会
- 68 会員大会・卒業式
- 70 2013年度 会員褒賞
- 72 広報活動・報道記録

青年会議所とは

1949年、明るい豊かな社会の実現を理想とし、責任感と情熱をもった青年有志による東京青年商工会議所(商工会議所法制定にともない青年会議所と改名)設立から、日本の青年会議所(JC)運動は始まりました。共に向上し合い、社会に貢献しようという理念のもと、1950年には大阪青年会議所が国内で2番目に創設され、日本JCという国家青年会議所を設立するための重要なメンバーとして関わっていきました。また各地に次々と青年会議所が誕生。1951年には全国的運営の総合調整機関として日本青年会議所(日本JC)が設けられました。

現在、全国に青年会議所があり、三つの信条(トレーニング「個人の修練」、サービス「社会への奉仕」、フレンドシップ「世界を結ぶ友情」)のもと、よりよい社会づくりをめざし、ボランティアや行政改革などの社会的課題に積極的に取り組んでいます。さらには、国際青年会議所(JCI)のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台として、さまざまな活動を開催しています。

大阪青年会議所の特性

青年会議所には品格のある青年であれば、個人の意志によって入会できますが、大阪青年会議所では25歳から40歳までという年齢制限を設けています。(但し入会資格は満25歳から37歳まで)これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を結集し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。会員は40歳を超えると現役を退かなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。

各青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。会員は1年ごとにさまざまな役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動に展開しています。青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は幅広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば国會議員をはじめ、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

大阪青年会議所の歴史

1950年	大阪青年会議所創立
1951年	
1957年	日本青年会議所創立
1962年	「整肢学院児童招待ドライブ」を開始
1970年	万国博野外劇場施設及び参加催物の提供
1974年	淀川改修100年を記念して「淀川100野外祭」を開催
1974年～83年	「淀川マラソン」を実施
1980年～	「キッズスマップ（交換ホームステイ）」を開始
1980年	「JCI一世界会議大阪大会」を開催
1981年	「TOYP（The Outstanding Young Person）大阪会議」を開催
1980年～89年	「国際シンポジウム」を開催
1982年	「わんぱく相撲」を実施
1985年～	天神祭「船渡御」への能、文楽、歌舞伎船での参加
1990年～93年	「Save The Children Japan（ストチ）」設立（大阪JCが中心となって設立）
1992年	阪神淡路大震災における組織的支援活動
1995年	国連広報局よりNGOとして承認



整肢学院児童招待 ドライブ



淀川マラソン

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する
確かな時代を築くために
率先して行動することを
宣言する

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を
築き上げよう

1996年	「大阪JCIモデル国連会議（OMUN）」開催	「ふれ愛ピック大阪後夜祭」を実施	第33回全国身障者スポーツ大会の後夜祭を運営し、多くの市民の皆さんと感動を共有	「第2回世界遺産国際ユースフォーラム1998」を開催	大阪JCI創立50周年記念植樹「大阪JCI実りの森」を実施	「日本JCI第50回全国会員大会大阪大会」開催	「次世代教育推進事業「根っ子学校」設立提言	「絵本「くものひ」シリーズ」出版	「淀川どろんこ探検隊」実施	「もつあきまへん浪速独立宣言」出版	「アメリカ村落書き消し事業」実施	社会人講師を学校に派遣した「フレ愛応援団事業」実施	「イング・ニューテリーのJCI世界会議にて、「2010年度JCI世界会議」が大阪に決定	「大阪JCI創立60周年記念式典・祝賀会」を開催	「第65回JCI世界会議」を大阪にて実施	「公益法人制度改革に伴う法人格選択で、「一般社団法人」を選択	「第67回JCI世界会議 台北大会」でノンベンチョンスターJCI締結	淀川「花は咲く」プロジェクト実施	2013年
1997年																		2012年	
1998年																		2011年	
1999年																		2010年	
2000年																		2009年	
2001年																		2008年	
2002年																		2007年	
2003年																		2006年	
2004年																		2005年	
2005年																		2004年	
2006年																		2003年	
2007年																		2002年	
2008年																		2001年	
2009年																		2011年	
2010年																		2012年	
2011年																		2013年	



ふれ愛ピック大阪後夜祭



創立 60 周年記念式典



第 65 回 JCI 世界会議

「心」あるまち大阪の実現をめざして

— 良心の循環が世界を変える —

はじめに

人の「心」がまちを創ります。

ここに生きてきた先人たちの想いによって創り上げられたまち、大阪。それらは、建造物などの形あるものだけではなく、制度や文化など目に見えない財産としても残っており、表面的な価値以上に目を向けなければならないことがあります。それは、先人たちが「まちは自分たちで創るもの」という心意気から、それぞれの良心に従ってすべきことを行い、この大阪を創り上げてきたという真実です。

まちは、いつの時代も変わることなく、そこに生きる人びとや企業などの組織、行政から命を吹き込まれ、その主体どうしが支え合いながら創り上げていかなければなりません。

良心とは、「他者のために、自己の心に照らして善悪を判断し、正しく行動する」という元来私たちが持ち合わせている気持ちです。いかに環境の違う国や地域でも、家族ではお互いを幸せにしようという、単純で素直な気持ちが循環しているはずです。私たちが生きるこの世界は、自分を取り巻く他者である、家族や友人などの身近な存在から祖先や、そこに住む人、働く人、今を築いてくれた先人、行政や国家、そして世界中のひとや国、生命を育んでくれる自然など、あらゆる有形無形の物ごとが互いに関係をもって成り立っています。その空間的、時間的な背景や繋がりにも目を向け、自らの想いや行動が、自身を含む全てのものに影響を及ぼすことを認識した時、それらに対しての正しい行動をしようとする気持ちが深まり、支え合う関係が構築され始めます。

誰もが他者のことに関心を持ち、自らとの関係について認識し、想いを表現できる機会に溢れ、思いやりを容易に表すことができる。そして、受け取った者が感謝を示し、また、他者に対して贈っていくことで、全ての人びとに共感が拡がる。さらに、それらの思いやりや共感が個を超えて、公における人びとのより大きく、深い、持続的な新たな関係へと発展したとき、良心が循環する「心」あるまち大阪が実現されます。

1. 子どもの未来の創造

親の子どもに対する良心は、「より良い人生を歩んでもらいたい」と思う気持ちです。知識を得るために学習をすることは子どもにとってとても大切なことですが、その過程の大切さや本来の目的と共に深く掘り下げて常に共有している親子は少なく、多くの親は環境を整え、結果を求めるために終始しがちです。しかし、これからを生きる子どもが豊かな人生を送るために親にしかできないことがあります。それは、「ならぬものは理屈抜きにならぬ」

などといった、人生を歩むうえで欠かせない世代を越えた普遍的な概念の共有や、今後の人生を切り拓いていくうえでの拠り所となる、親の人生経験に裏打ちされた英知の継承です。

そして、子どもは自分の根幹を見つけながら、他者との関わりの中で自己を形成していきます。心の形成に最も重要な時期である子どもの頃に、自分を取り巻く自然など身近なものとの関係を知り、将来自分たちが生きる社会が支え合いで成り立ち、自分もその一部であることを感じることは、その時には意識をしていなかつたとしても、先の人生を歩み進めていくうえで振り返った時や、岐路に立った時に、より豊かな人生の方向を指示する道しるべとなり、生きていくうえでの礎となります。さらに、その原体験は、広い視野を与えてくれ、家族や周りとの関係をより深め、まずは自分との関係を感じ取れるものに対して、さらにはその先にあるまちや国、あるいは世界などの自分を取り巻くもの全てに向けて、良心を発露するきっかけとなります。

私たちは、子どもたちがより良い人生を歩むために、生きていくうえで必要な力を育み、支えながら成長を見守り、導いていかなければなりません。己を律しながら、自らの背中を見せて共に生きていくことは、親としても大きな喜びとなり、生きるうえでの糧となるはずです。親から子どもへ、子どもから社会へ、そして未来へ、良心の循環を起こし、「心」あるまち大阪を実現します。

2. 支え合うまち大阪の創造

それぞれの地域が個別の実情に応じて将来を切り拓いていく時代となり、大阪も都市としての在り方を追求しなければなりません。私たちは、広域と狭域すべきことを明確にし、市民・NPO・企業・行政などがそれぞれの知恵と能力を合わせて協働で支え合うまちを実現します。

大阪には、ここに住む人びとが、「愛するまちのために」と私財を投じ、労を惜しまずに完成させたものが数多くあります。大阪市の中心部を南北に縦断する御堂筋も、まちの発展のために、行政の未来を見据えた計画と市民の負担によってできたものです。普段は特に意識をしていても、時空を超えた良心によって成り立っていることが数多くあり、社会は支え合っているからこそ存在することができると感じ取れます。

元来、大阪の人びとには、他者のために行動しようとする気持ちが備わっており、まちへの愛着と誇りがあります。誰もがためらうことなく人やまちに対してその気持ちを行動で表現し、そのことが身近な目に見える関係からさらにその先へ伝えられて、人びとが実感しながら、普段の生活の中でも自然とそのサイクルが

社団法人大阪青年会議所 第63代理事長

山本 樹育



繰り返されるようになったとき、互いに支え合う関係が創造されます。

さらに、それぞれの主体だけでは解決できない課題や、大阪の中だけにとどまらず、未来へも影響を及ぼす課題についても、市民が事実に基づいて理解を深め、その目的に広い共感を集め、誰もができることからまち全体で一体となって取り組んでいかなければなりません。

私たちは、それぞれの主体が、他者に目を向けるために、まずは自らがしなければならないことを行い、目の見える範囲から共に助け合い、皆が自分たちの属する公であるまちや、遠くのひと、未来を想い支え合い行動する、自助・共助・公助で成り立つ「心」あるまち大阪を創造します。

3. 世界に役割を果たす大阪の創造

私たちの生活は、世界との関係の中で成り立っています。情報伝達手段や移動手段が進化し、時間的にも空間的にも距離が縮まり、ひとつの事柄が瞬く間に他者に影響を及ぼすこの時代だからこそ、人びとの確実な繋がりの中での関心や共感の範囲を地球規模に拡大させ、やるべきことを共有し、行動へと移していくなければなりません。

世界は、国の集まりであり、国は地域の集まりです。世界がより良い場所になるためには、それぞれの地域や関係において、良心に基づいた支え合いによる課題解決が必要です。その重要な要因となるのが地域の基盤となる経済であり、持続性をもった経済活動に裏打ちされた社会開発によって、それぞれの地域が発展していくなければなりません。さらに、グローバルな経済を通じて世界が繋がっているこの時代においては、地域や国を超えた全ての関係者が当事者となり、自身のため他者のための社会開発を経済活動によって行っていかなければなりません。

そして、世界は、家族・まち・国を想い、誇りを持つ人びとの集まりです。この基礎となる部分を大切にし、自分たちが守らなければならないものとは何なのかを腹に据え、空間を越えて顔の見える関係を構築し、互いの価値観の違いを受け止めながら、対話を重ね、良心をもって、全ての人びとが共に生きる世界を創っていくなければなりません。そして、世界中の未来を担う人びとが心を通わせ、この想いを持ち、あらゆる場所でそれが行動へと移した時、私たちの住むこの世界はより良く進化を遂げるのです。

未来を担う人びとによって創られた想いが発せられたとき、大阪も世界も変わり始めます。私たちは、大きな変化を生む力を集

結させ、世界を見据えた関係の中でそれぞれの主体が先進的な役割を果たし、持続可能な社会を創造する、世界に良心を循環させる「心」あるまち大阪を実現します。

4. 私たちの心の結晶を大阪に

『一身独立して一国独立す』

大阪に生まれ学んだ明治の先覚者、福沢諭吉はこのように説きました。

まちや国を創るのは私たち自身であり、一人ひとりが独立し、自己の尊厳を守ったうえで、他者のことを想い、公に貢献するという自らの良心に従って生きることができてからこそ、初めてまちや国を存在させることができます。

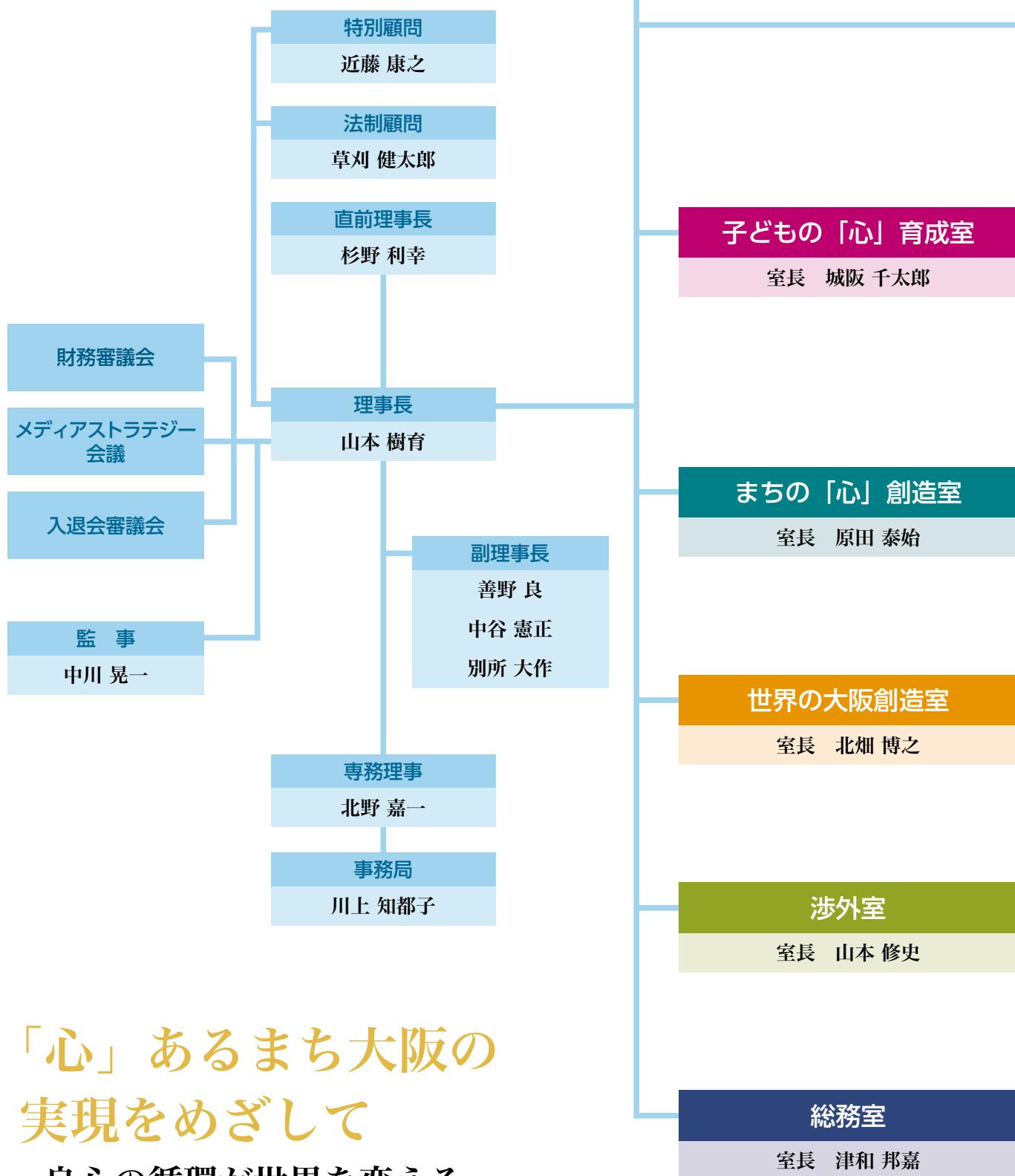
私たち JAYCEE は、良心を循環させることを実践し、その輪を広げていかなければなりません。私たちは、何も持たずにこの世に生まれ、何も持たずにこの世を去ります。しかし、人びとの心やまちに生きた証を刻むことはできます。人生の中で最も輝きを放つ青年期。私たちは、青年期にこの時代を生きた証を心の結晶として残し、今しかできない、今だからこそできることを全うしなければなりません。

いつの時代も青年会議所運動は、人びとの心を動かし社会を変えてきたことは不变であり、人がまちを創り、国を創っている以上はこれからも変わることはないはずです。私たちの存在意義は、家族や愛する人びと、共に働く人びとやその家族の暮らしを豊かに幸せにすることです。そして、そのため明るい豊かな社会を築くことです。これらは決して単独で成り立つものではなく、さらに、両者が成り立たないと意味を成しません。そして、それを達成させるための第一歩は、人として、JAYCEE としての自分自身の成長に他なりません。

人びとの心の中にある良心を発露させていきましょう。私たちの運動に対する共感を拡げ、心を動かし、共にひとつひとつ行動へと移し、愛する大阪をより豊かなまちへと変えていきましょう。その着実な積み重ねが更なる共感の輪を呼び、運動が拡がり「心」あるまち大阪が実現されるのです。

他者を知ることを愛し、自らの良心に従って行動する
自らが変化の原動力となり循環の起点となる

「心」あるまち大阪の実現に向けて。



会員開発委員会

委員長 出口 貴之

1. 新入会員拡充
2. 新入会員の指導・育成
3. 整肢学院児童レクリエーションの企画と実施

4. 全体事業の準備と参画

JCI 大阪発信委員会

委員長 中村 渉

1. 対外向け広報の実施
2. 会員向け広報の実施
3. JCI 大阪のブランディング

4. 全体事業の企画と実施
5. 新入会員拡充

子どもの未来創造委員会

委員長 小川 徹朗

1. 未来への原体験創造事業の企画と実施
2. 全体事業の準備と参画
3. 新入会員拡充

子どもの良心育成委員会

委員長 赤坂 靖之

4. 子どもの良心発露事業の企画と実施
5. 全体事業の準備と参画
6. 新入会員拡充

親子の「心」育成委員会

委員長 谷間 真裕

7. 親子の英知継承事業の企画と実施
8. わんぱく相撲の企画と実施
9. 全体事業の準備と参画

10. 新入会員拡充

まちの良心循環委員会

委員長 高橋 康智

1. まちの良心循環事業の企画と実施
2. なにわ淀川花火大会運営への協力
3. 全体事業の準備と参画

4. 新入会員拡充

まちの連携推進委員会

委員長 竹内 健祐

5. まちの主体連携事業の企画と実施
6. 未来選択事業の企画と実施
7. 災害復興支援

8. 大阪 NPO センターとの連携
9. 全体事業の準備と参画
10. 新入会員拡充

世界の良心循環委員会

委員長 大野 育生

1. PCY 事業の企画と実施
2. ISL との連携
3. 全体事業の準備と参画

4. 新入会員拡充

大阪の未来創造委員会

委員長 佐藤 裕介

5. TOYP 事業の企画と実施
6. セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの連携
7. 全体事業の準備と参画

8. 新入会員拡充

国内涉外委員会

委員長 中谷 誠

1. 日本 JC への出向者支援及び連絡調整
2. 日本 JC 事業への参加推進
3. LOM 間交流の推進

4. 全体事業の準備と参画
5. 新入会員拡充

国際涉外委員会

委員長 大西 直

6. JCI 事業への参加促進
7. JCI 及び日本 JC 褒賞事業へのエントリー調整
8. シスター JC 交流の推進

9. JCI セミナーの参加促進
10. 全体事業の準備と参画
11. 新入会員拡充

資質向上委員会

委員長 小池 竜平

1. 会員資質向上の推進
2. 月例会の企画と実施
3. 会員大会の企画と実施

4. 全体事業の準備と参画
5. 新入会員拡充

総務財政委員会

委員長 岡部 倫典

6. 新年名刺交換会の企画と実施
7. OB 現役交歓会の企画と実施
8. 総会運営の準備と調整
9. 事務局機能の充実
10. 定款諸規則の整備
11. 理事会運営に関する準備と調整

12. 財務審議会運営に関する準備と調整
13. 委員長間の調整及び連携
14. 緊急事業の企画と実施
15. 全体事業の準備と参画
16. 新入会員拡充



社団法人大阪青年会議所
第 63 代理事長

山本 樹育

2013 年度は、『「心」あるまち大阪の実現 – 良心の循環が世界を変える –』をテーマに掲げ、一年間活動をしてまいりました。

大阪市市民の皆様、大阪市をはじめとする行政関係者の皆様、NPO、NGO、企業関係者の皆様には、私たちの活動に多大なるご協力とご支援を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。

いつの時代においても、まちに命を吹き込むのは、そこに生きる私たち市民や、企業などの組織、行政などの主体者です。大阪のまちは、ここに生きてきた先人たちの想い=「心」によって創り上げられてきました。それらは、建造物などの形あるものだけではなく、制度や文化など目に見えない財産としても残っており、表面的な価値以上に目を向けなければならないことがあります。

それは、先人たちが「まちは自分たちで創るもの」という心意気から、それぞれの良心に従ってすべきことを行い、この大阪を創り上げてきたという真実です。

そして、良心によってつくられたものは、有形・無形にかかわらず、生きた証として人びとの心に残ります。良心とは「他者のために、自己の心に照らして善悪を判断し、正しく行動する」という誰もが持ち合わせている気持ちです。

人の「心」がまちを創るのであれば、人の意識を変えていくことが私たちの使命であり、大阪青年会議所の運動です。私たちは、市民やメンバー自らが良心の循環の起点となるべく、それぞれの主体が良心を発露させることから取り組みました。

まずは、大阪青年会議所の活動を通じて、共に公に貢献する仲間を増やすために同世代の青年と語り合う多くの機会を設け、入会に向け真剣に取り組みました。その結果、250 名を超える新たな仲間を得ることができ、1000 名を超える組織となりました。

また、大阪青年会議所の活動を多くの市民に知ってもらい、ファンになってもらうために広報にも注力しました。

そして、未来を担う子どもの原体験を通じた育成、市民がつながりに対して想いを表現し共感が公に広がる仕組みの構築、関心や共感の範囲を大阪から地球規模に拡大させる人びとの確実なつながりの構築、自らの成長を通じて大切なものを守り公に貢献するメンバーの育成を柱に運動を展開しました。

これらの運動の成果の詳細については、後述されます委員会のページにてご覧いただけましたら幸いです。

1950 年に設立された、私たち社団法人大阪青年会議所の設立趣意書には、次のように記されています。
「青年」それはあらゆる価値の根源である。
これは 60 年の時を重ねた今でも変わることのない私たちの原点であり本質です。

私たちは、これからも大阪のまちのために、奉仕・修練・友情の三信条のもと、明るい豊かな社会を築いてまいります。
今後とも社団法人大阪青年会議所をよろしくお願ひいたします。



社団法人大阪青年会議所
直前理事長

杉野 利幸

「大阪のまちに真の『つながり』を実現しよう！」安心して暮らせる安全なより良いまち創りを目指した2012年度から更に「つながり」を実感できる運動を2013年度は展開してくれたと実感しております。

良心の循環運動は家族との関係・地域社会との関係そして世界との関係を誰もが持っている良心を通じて、自分が置かれた状況に応じて判断する力より強くしていく運動であります。2013年度だけに留まらず、メンバーを含めた地域社会に住み暮らす一人ひとりが起点となり今後においても良心の循環を拓げていくことを切に祈念致します。

最後になりましたが、本年度「心」あるまち大阪の実現のためにご尽力頂いた行政・関係諸団体・市民の皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、2014年度以降も本年同様のご指導・ご鞭撻をお願い致します。

来年以降私たち大阪青年会議所は一般社団法人としての第一歩を踏み出して参りますが、2010年代運動方針に記載する「公」「敬」「創」の精神を忘れず、また創始の精神である「『青年』－それはあらゆる価値の根源である。」という文言を心に刻み、先輩諸兄が培われた「つながり」を大切にして益々の発展を祈念致しまして直前理事長の挨拶とさせて頂きます。



特別顧問

近藤 康之

2013年度は社会的に大きなインパクトのある事柄がある中、関西を中心としたニュースは日本に広がるようなものは少なかった年でした。地下鉄の民営化をめざした議会での否決や遅々として進まない市政は大阪の閉塞感を示しているように見えます。一方、新しい息吹として堂島川を中心とした規制緩和による水辺のカフェが増えたことや、市内の各所に自転車置き場ができてしたことなど、民間の呼びかけや具体的な動きによって市政が動かされてきた小さな積み重ねも大阪市の中には芽をみせつつあります。行政課題を民間の知恵や努力で埋め、天領三分割の時代から成熟され続けた大阪の文化を若い世代が実践しつつある一つの成果であると思います。時代は世代間闘争に30歳代か40歳代が生き残り、市政や経済界を牽引していくなくては、この世界を巻き込んだ競争では残っていくことはできないでしょう。大阪青年会議所は、新しくはカンボジアのJCI プノンペンやモンゴルのJCI ウランバートル等の新興国、古くはベルリンやサンフランシスコなどの現在の先進国等の多くの姉妹団体

を持つ単独でも世界的な団体です。2010年から続く、PCY事業や1980年から続くTOYP事業などの国際事業を通じ、世界中に多くの資産を残してきました。経済においても海外生産、海外販売が大手企業の中心的戦略になっている昨今、中小企業経営人の持つ世界観が地域経済を大きく変えていきます。また、移民政策もそうですが、毎年三万人ずつ流出していく、世界に散らばる日本人たちのネットワークや先人が残した資産を運用して、次の世代により多くの資産として残すこと、また官に頼らず官を支える大阪青年会議所、大阪というまちの気質を護りつづけることが地域を根強く支え続ける私たちの矜持だと示し続ける団体である事を、2013年度もしっかり確認できた年でありました。



法制顧問

草刈 健太郎

2013年度 社団法人大阪青年会議所は「心あるまち大阪」の実現をめざして一年間運動を展開してまいりました。

社団法人大阪青年会議所には法制顧問として関わらせて頂きましたが、それ以外にも、「明るい豊かな社会」の実現するために公益社団法人日本青年会議所近畿地区協議会の運営専務として出向させて頂きました。今年度は、法制顧問という立場からは勿論、大阪青年会議所の運動、事業を様々な観点から見つめ、大阪青年会議所や日本青年会議所の活動を通じて、今まで培った知識や経験をもとに運動の本質をメンバーの皆様に伝え続けてまいりました。

今、青年会議所に求められることは、これまで以上に公益性をもつ運動を発信し、事業を行い、その一つ一つに成果を出していくことであると考えます。本当に社会からその運動や事業が求められているか、間違いの情報を鵜呑みにして事業を組み立てないか等、調査・検証を徹底的に行い、自己満足に陥ることなく、社会にインパクトを与える事業へと確実に進化させていく成果を出さなければならないのであります。

そこで必要なのは青年会議所の運動を理解し、社会にインパクトを与える情熱に溢れたリーダーの創出であり、青年会議所がもつ見えざる資産（様々な団体との関係、地域における信用力、人財など）を掘り起し活用していくなくてはいけないと考えます。

また、青年会議所は単年度制をとっており、実施する事業にも単年度事業と継続事業がありますが、単年度事業であっても一年間で運動が止まることなく持続的に拡がり発展していくような運動、事業を計画段階から創造していくなくてはなりません。今後は、あらためて青年会議所運動のあるべき姿を考え、自身の意識を変革し、役割と責任を自覚しながら未来を見据えて運動を展開していくことが求められます。

最後に、大阪青年会議所に格別のご理解とご協力を賜りました関係各位、並びに会員のみなさまに心からお礼を申しあげます。



副理事長

善野 良

本年度社団法人大阪青年会議所は、「心あるまち大阪の実現をめざして」～良心の循環が世界を変える～を掲げ、山本理事長の強力なリーダーシップのもと、大阪のまちに私たちの掲げるスローガンの実現を目指し、1000名を超えるメンバーが「良心の循環」を大切にし組織が一丸となり運動を展開して参りました。また各室・委員会が行った事業活動が我々の目指すべく方向性及び活動となるよう慎重に確認しながら適切なアドバイスを随時行って参りました。

本年度も多岐に渡る運動を大阪のまちに展開させて頂きましたが、私は世界に果たす大阪の創造を目指し、本年度、世界の大坂創造室の担当副理事長をさせて頂きました。

室テーマを All for a sustainable relationship (すべては持続可能な関係構築のために) とし、より良い未来の創造に向けた人びとの有益な繋がりを構築するため、自らが起点となり役割を果たす人びとを増やすべく、対象者を学生とし、社会の一員としての役割を全うする次代の人びとを溢れさせるた

めに、1週間に渡り事業を展開させて頂きました PCY 事業。そして、大阪のまちの人びとに向け目標すべく理想に向け継続して協力し合う意欲を高めるために、海外よりフェアトレード、BOP 等で活躍される 5 名の傑出された若者を招聘させて頂き、本年度 34 年目の事業となる TOYP 事業を、世界の大坂創造室として様々な方のご協力の下、事業を展開させて頂き、我々が本年度目指す、自らが起点となり役割を果たす人びとを増やせたことを、心より嬉しく思っております。

最後に、1年間を通じて我々が掲げさせて頂きました「良心の循環」の運動の拡がりにご協力頂きました行政・各種団体・大阪のまちの皆様に、大変お世話になりましたこと深く感謝致しますとともに、2014 年も本年度以上のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げ、本年度副理事長のご挨拶とさせて頂きます。

1年間本当にありがとうございました。



副理事長

中谷 憲正

本年度、「心」あるまち大阪の実現に向けて、会員開発委員会及びまちの「心」創造室の担当副理事長を仰せつかりました。会員開発委員会では、良心の循環の起点となるべく光輝くリーダーを溢れさせるために、会員拡充、指導・育成を行いました。拡充に際しては、255名の新たな仲間を迎えることができ、数年ぶりに 1000名を超えるメンバーで運動を発信することができました。また、拡充と同様に重要なのは入会後の指導・育成であり、まちの未来を照らす自覚と責任感をもったリーダーの育成に取り組んでまいりました。次年度以降も、私たちの活動の趣旨に賛同する仲間を拡げていき、まちに対して積極的な変革を創造できる組織・人づくりに力を尽くしていくなければなりません。

まちの「心」創造室では、協働で支え合うまちを創造するために、それぞれの主体者が知恵と能力を結集し、他者を想い支え合う有機的な関係が必要です。そのために、未来を創造する気概を有した能動的に行動する人びとを溢れさせなければなりません。まずは、24 区すべての区長との面談を

実施し、広域と狭域すべきことを明確にする必要性を再認識しました。そして、大阪のまちに良心を循環させることに拘り続け、自身が受けた厚意を他者へ贈り拡げていく人びとを増やすことを目的とした、北区役所との共催による「花は咲く」プロジェクトを新規事業として行い、企業・学校・NPO・市民の良心を発露させてまいりました。また、より良い未来を描く意識を高めることを目的とした未来選択事業を実施しました。若年層の当事者意識の低下が懸念される昨今において、関心の薄い年齢層をターゲットとした事業構築により、多くの市民の意識変革に繋げてまいりました。社会は支え合っているからこそ存在するということを実感した一年であり、未来へ向けて 2013 年度の運動が更に拡がりをみせるものと確信しております。

結びに、ご支援ご協力頂きました関係各位に心より感謝を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。



副理事長

別所 大作

本年は「心」あるまち大阪の実現をめざしてJCI大阪発信委員会と子供の「心」育成室を副理事長として担当させて頂きました。本年度は昨年の政権交代後の経済対策を軸とした政策運営から景況感は改善し、2020年度オリンピックの開催が決定するなど大変前向きな一年となりました。しかしながら少子高齢化、人口減少、エネルギー問題、領土問題をはじめとする外交問題、TPPの参加の是非など日本が先送りの出来ない多くの問題は未だに解決の糸口さえ見出だせていない状況は次世代に向けて多くの不安を残したままであることに変わりはありません。だからこそ明るい豊かな社会の実現を目指し、公、敬、創の精神に基づいた私たちの運動をより広く大阪のまちに発信することで市民が自立し、未来に向けて前向きに行動することにつながると確信し、本年はより効果的にJCI大阪を発信するべくメディアストラテジー会議の設置、運営、外部のPR会社の活用など新たな取り組みにチャレンジしたことでメディアの露出は格段に増加、認知度は大いに高まったと確信するとともに私たちの活動が未来に繋が

ることを再確認いたしました。また、この国の未来の為には未来そのものである子どもたちの「心」を豊かに育むことが必要であると考え、豊かな心を育むために私たち大人が凛とした姿勢で子供を導く責任感を高めることを目的としてわんぱく相撲、社会人講師、キッズチャンレンジ等の事業を通じ運動を拠げて参りました。そして、本年は10月に大阪のシンボルである大阪城西の丸庭園にて運動総括事業として大阪キャッスルハッスルを実施させて頂き、多くの市民に私たちの展開する運動にふれて頂き、まちの未来、これからの大坂を自らが主体者として関わる一歩を踏み出す機会を創造することができました。本年は「心」あるまち大阪の実現に向けて担当させて頂いたJCI大阪発信委員会と子供の「心」育成室はもとより大阪青年会議所全体で拡く運動を発信することで大阪のまちの良心を循環する起点となる一年となったと確信しております。この良心が次年度以降にも循環する為に引き続き活動して参りたいと思います。結びに多くの支援を頂きました関係各所の皆様に厚く御礼を申し上げます。



専務理事

北野 嘉一

2013年度は山本理事長が掲げる「心」あるまち大阪の実現～良心の循環が世界を変える～をテーマに1年間運動を展開して参りました。「他者のために、自己の心に照らして善悪を判断し、正しく行動する」という良心を大阪のまちに住み暮らす人々・地域や社会そして世界にまで広げる事業を展開していくことができたと確信しております。良心は誰の心にでもある単純なものであります。それゆえに永遠に続くものであります。良心の循環は今年が起点となり未来に向かって更なる広がっていくことを祈念しております。また、私たちがスポンサーをしている奈良の地において全国大会が開催されました。副主幹としての担いを全うさせて頂き、また、2010年度において私たちが開催した世界会議で頂いたご恩を縦の繋がりである時代を超えてお返しすることができました。時代を超えた良心の循環でもあったと思います。そして本年で63年目を迎えた社団法人大阪青年会議所も来年1月からは一般社団法人として新たなスタートを切ることになります。法人格が変わったとしても、「青年それはあらゆる価

値の根源である」と設立趣意書に謳われている精神や63年間培われた私たちの有形・無形の財産は絶えることなく永遠と続くものであります。我々は2010年代運動方針に基づき「公」「創」「敬」の精神を守り今後とも運動を発信し続ける団体でなければなりません。また、運動の下支えである財政面についても、過去から受け継いだ意志や想いを大切にしながら基盤強化に努めて頂くことをお願いいたします。すべては意味があることであり無意味なものは存在しないことを忘れずに運動や運営を行っていかなければなりません。最後になりましたが本年度、社団法人大阪青年会議所のすべての運動や活動にご支援を賜った関係各位、すべての会員の皆様に感謝を申し上げるとともに、次年度以降も青年の運動や活動に対してご支援を賜りますようお願いを申し上げて本年度専務理事のご挨拶とさせて頂きます。



監事

中川 晃一

2013年度　社団法人大阪青年会議所は、「心」あるまち大阪の実現をめざして～良心の循環が世界を変える～をスローガンに掲げ、山本理事長の素晴らしいリーダーシップのもと、1000名を超えるメンバーによって「子ども」、「まち」、「世界」の3つの柱を中心に関連を展開されてきました。人の「心」こそがまちづくりの根幹であり、その「心」を広めるだけでなく、循環させることで大阪のまちにとって有益で、持続可能な関係が築き上げられると定め、そしてその展開される運動と実施する事業が公益性を備え、より効果の高いものかを監事として一年間確認してまいりました。

まず、「子どもの心」に関しては、子ども自身の心だけでなく、子を見守り育てる親や地域の大人の心も育み、互いに成長し信頼しあえる関係を築き上げることができました。また「まちの心」に関しては、まちに対する関心の喚起、主体者それぞれの役割について理解できる機会を提供することで、主体者それぞれが共に理解し行動できる関係を築くことができました。そして「世界の大坂」としては、世界で起こっている

様々な問題の解決に向け、その糸口としてビジネスモデルあるいは次代を担う学生による新たな持続可能な手法を創造、発信することで、大阪から世界を変える運動を開くことができました。

また、対的には、250名を超える会員拡大に成功し、組織としての運動発信力を高めることができました。そして会員の資質向上をめざし本年度の運動に即した月例会、組織間連携によりリーダーとしての資質を高めることができました。また、JCI、日本JC事業への積極的な参画は、JAYCEEとして自身が変化の起点となるべく自覚と責任を理解することができました。

最後になりますが、2013年度は社団法人としての最後の年を締めくくりました。しかし法人格は変われども、63年間培ってきた「公」のための組織であることは不变であります。今後も明るい豊かな社会の実現のために、時代背景に即した運動展開をされることをご祈念申し上げます。

1月

8日 新年名刺交換会



帝国ホテル大阪

12・13日 池田会議・総会



池田不死王閣

17～20日 京都会議



26日 大阪もっと元気プロジェクト第1弾



2月

6日 月例会



6日 三代厄除け



大阪天満宮

9日 第6・7回事業説明会



リーガロイヤルホテル

15日 第8回事業説明会



22日 第9回事業説明会



25日 北地域



28日 大阪もっと元気プロジェクト第2弾



大阪市公館

3月

8～11日 日本JC復興創造フォーラム



14日 月例会



20日 淀川「花は咲く」プロジェクトVol.1



帝国ホテル大阪

4月

6・7日 入会式・新人セミナー



大阪国際会議場

21日 淀川「花は咲く」プロジェクトVol.2



24日 月例会



帝国ホテル大阪

5月

10日 社会人講師育成プログラム



12日 わんぱく相撲大阪市大会



14日 北地域8LOM合同例会



19日 淀川「花は咲く」プロジェクトVol.3



6月

1日 整肢学院児童レクリエーション



13～16日 ASPAC 韓国・光州大会



18日 月例会



帝国ホテル大阪

23日 プレ PCY

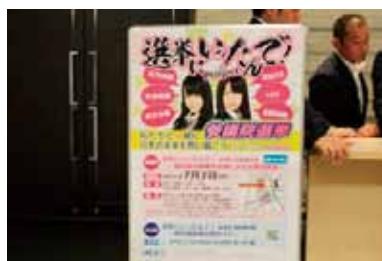


26日 社会人講師派遣事業



7月

2日 公開討論会



グランフロント大阪

6日 淀川「花は咲く」プロジェクト Vol.4



9日 月例会



帝国ホテル大阪

13日 近畿地区大会宇治大会



20～21日 サマーコンファレンス



パシフィコ横浜

6～7日、25～31日 JCI 大阪キッズチャレンジ



シドニー

8月

8日 OB 現役交歓会



リーガロイヤルホテル大阪

10日 なにわ淀川花火大会



20日～ PCY



9月

6日 TOYP



7日 大阪ブロック大会



10日 社会人講師派遣事業



14日 淀川「花は咲く」プロジェクト Vol.5



20日 月例会



28日 イノベーター公志園



大阪市中央公会堂

10月

3～6日 奈良全国大会



9日 月例会



12・13日 OSAKA キャッスル☆ハッスル



大阪城西の丸庭園



17日 金沢大阪交歓会



17日 社会人講師派遣事業



19日 淀川「花は咲く」プロジェクト Vol.6



11月

4～9日 世界会議リオデジャネイロ大会



14日 月例会



帝国ホテル大阪

16日 社会人講師派遣事業



19日 会員拡大事業・異業種交流会



12月

2日 大阪ブロック協議会大納会



ハイアットリージェンシー大阪

3日 社会人講師派遣事業



5日 会員大会



全体事業

OSAKA キャッスル☆ハッスル 2013

会場：大阪城西の丸庭園 特設ステージ

10月12日（土）・13日（日）



2013年10月12・13日、大阪城西の丸庭園にて
OSAKAキャッスル☆ハッスル 2013を開催しました。
両日とも晴天に恵まれ、大勢の市民の方々にもご参加
いただき、大変有意義な時間を提供できました。
大阪青年会議所が開催するOSAKAキャッスル☆ハッ
スルも本年で3回目となります。本事業は、大阪青年
会議所の1年間の事業を通して知り得た学びや気づき、
そこで得られた様々な収穫を発表する場でもあります。
今回は我々の運動を、より効果的に発信できました。
また、大阪市、大阪市経済局、大阪ウォークと共同開
催することにより、地域に根ざした団体として活動い
たしました。

開催イベント

- 大阪的グルメランプリ
- 大阪城キャンドルナイト
- キッズチャレンジ発表会
- はならんまん花壇
- 大阪24区ええとこPR合戦
- AiFOOD
- PCY
- おもしろ空間 ビバ遊ビバ
- 親子の英知継承プロジェクト

同時開催 大阪ウォーク 2013



■ 大阪的グルメランプリ



■ 大阪城キャンドルナイト



■ キッズチャレンジ発表会



■ はならんまん花壇



■ 大阪 24 区ええとこ PR 合戦



■ AiFOOD



■ PCY



おもしろ空間 ビバ遊ビバ



■ 親子の英知継承プロジェクト



会員開発委員会

Member Development Committee

■ 基本方針 まちの未来を照らす光輝くリーダーを溢れさせよう！

私たちは、自らまちを創るという熱い情熱を抱き、掲げた理想に向けて何事にも諦めず積極果敢に挑戦し、他者のために行動する意欲を持ち、互いの可能性を高め合い、変革者としての自覚と責任感を持った光輝くリーダーを創出します。

■ 事業報告

1. 新入会員拡充

事業の内容 入会資格者に対してJCI大阪の運動を広く伝え、JCI大阪のメンバー数を1000名以上にするために可能性溢れる青年を広く社会に求める。

実施日時 1月～6月

場所・会場 各実施会場

参加人数 計画:新入会目標メンバー数:250名 結果:新入会メンバー:255名

実施方法の工夫

- ・入会のための説明会ではなく、JCI大阪の運動を伝えるための事業説明を実施。また、参加者が参加し易いように配慮し、時間や曜日を変えて16回実施した。
- ・入会資格者の対象にも注視し、青年経済人を対象としたビジネスフォーラムや、女性を対象とした女子会など、さまざまな視点でアプローチした。当日実施するアンケートの内容の中で、「新人対象アンケート」の鳥井先輩の講演を中心とした設問で、Aよくできた、Bできた、C少しできた、の回答を合わせて83%以上獲得しました。

事業目的に達した点

- ・新入会員数の目標であった250名を超えた255名の新入会員を拡充することができた。
これにより、2013年6月時点でのメンバー数1012名となった。
- ・JCI大阪63年間の歴史の中で、もっとも大きなLOMの成長と発展をすることができ、今後さらなる成長と発展を繰り返すことができる。

事業目的に達しなかった点

2013年4月までに目標に達成することができなかった。2月、3月における時間的な余裕がなかったことが原因の一つだと考えられる。スケジュールをしっかりと立て計画的に進めることができれば目標に達成できたものと考える。

2. 入会式・新人セミナーの企画と実施

事業の内容 新入会員に対して、自らがまちを創るという情熱を抱き、何事にも諦めず積極果敢に挑戦し、まちの変革者としての自覚と責任感を持った光輝くリーダーを育成

実施日時 4月6日(土)・7日(日)

場所・会場 大阪国際会議場・勝尾寺

参加人数 計画:新入会員:238名／旧人:77名／12未満了者:7名／合計:322名

結果:新入会員:180名／新旧人:1名／旧人:80名／合計:261名

実施方法の工夫

厳正厳粛に開催される入会式から、期待感と高揚感を持ったまま新人セミナーを開催しました。
新入会メンバー同士が交流し易いようにゲームや小委員会対抗選挙などの手法を用い協力することによる一体感を感じてもらい仲間としての絆を深めました。
光輝くリーダーになる為にこれからどのように行動していくかを発表という場を通じて気概を高めてもらいました。

事業目的に達した点

- ・自らがまちを創るという情熱を抱くために、JCの歴史や基礎知識を理解し、JCI大阪の活動の目的や活動方法、組織の役割を知り、JCへの興味と関心を持って頂くことができた。
そして、自覚と責任感をもつリーダーとは何かを知ることで今後の活動における意欲を持つもらいました。
- ・何事にも諦めずに積極果敢に行動するために、仲間との議論の中で他人を思いやることの大切さを理解し、何事にも積極的に発言、行動することの大切さを実感してもらいました。
- ・まちの変革者としての自覚と責任感を持つために、大阪のまちの現状や問題点を議論する中で考え、1人一人がまちの変革者としての主体者である自覚と誇りを高めて頂くことができました。

事業目的に達しなかった点

まちの変革者としての自覚と責任感を持つために大阪のまちの現状や問題点を議論して頂き、まちの未来を創造するという自覚がうまれないと回答する新人メンバーが2名いた。

まちの変革者とは何か、自覚と責任感とは何かを、今後のJC活動を積極果敢に参画する事により、事業の目的や組織の意義や価値をしっかりと理解し、実感していただく事で光輝くリーダーの育成に邁進していく事が必要だと考える。

3. 整肢学院児童レクリエーションの企画と実施

事業の内容	他者のために行動する意欲を携えた、光輝くリーダーを育成していくことを目的とした事業
実施日時	6月1日(土)
場所・会場	大阪府立整肢学院・大阪府立中津支援学校・AP梅田大阪
参加人数	計画:合計:468名 対内(会員開発委員会旧人:79名／会員開発委員会新人:184名／役員:14名／他委員会:36名) 対外(児童:95名／職員:60名) 結果:合計:514名 対内(会員開発委員会旧人:85名／会員開発委員会新人:184名／役員:12名／他委員会:54名) 対外(児童:96名／職員:83名)

実施方法の工夫 事業全体のテーマ「良く笑い!心が動く!US“J”大阪!!」を定め事業の一貫性と方向性を理解しやすいよう工夫しました。
事前準備として各小委員会からリーダー、サブリーダーを選出し新人企画会議体を組織し、旧人メンバーから事業経験を語って頂くこと、整肢学院の先生の講演を聞いて頂くことで、事業に対する目的と意識を高めました。
また、旧人メンバーには、見学会や新人の指導育成の立場を経験して頂き、光輝くリーダーとしての資質を養っていただきました。

- 事業目的に達した点**
- 他者のために行動する意欲を携えた光輝くリーダーを育成するために、見学会・意見交換会で、子供達が望んでいるものや、学院の先生からいただいた意見を、小委員会のメンバーで共有することで、相手の目線に立って児童が喜んでいる姿を想像した企画に取くむことができ周りが笑顔になる企画を実施することができた。
 - また、アテンドする児童の障害度合いによって感じたことに差はあるが、周りの人びとの笑顔が自分自身の喜びだと思う純粋な気持ちをもってもらえることができた。
 - そして、新人企画会議では、新人の前向きな取組み姿勢を見て、会開旧人メンバーも経験を生かした、フォローと指摘ができていたことが検証できた。新人メンバーは、テーマを基に児童を喜んでいる姿を想像し、企画に取り組むことで児童を喜ばせることができた。
 - 検証会では、JCの事業に対して、企画から運営まで携わり、事業終了直後の気付きや学びを意見交換することによって、JC運動を理解し今後積極的に参加するきっかけとなった。

事業目的に達しなかった点 新人メンバーは入会後、入会セミナーに参加し、JCの楽しさと、今後の事業への期待をふくらませています。しかし、整肢学院事業は、見学会・意見交換会・新人企画会議・小委員会での企画会議・設営準備と、多くの労力を割き、事業に積極的に参加するメンバーと、参加しないメンバーがはっきりと分かれています。事前の設営の準備等に参加できなかつたメンバーは、当日の事業にも参加しないケースがあり、旧人メンバーが協力して新人の参加促進をしたり、話を聞いたりすることで事業への参画意識を高める努力をしなければならない。

事業当日の参加率を向上することができれば、事業のプロセス、JCの面白さを知ることができ、今後の事業に積極的に参画し、光輝くリーダーの育成につながる。

私たちは、「心」あるまち大阪の実現をめざして、光輝くリーダーを溢れさせるために、未来を創造する新たな仲間を広く求めてまいりました。光輝くリーダーをまちに輩出することが未来のまちを創造することに繋がるという熱い情熱を抱きながら 255 名もの新たな仲間と出会うことができました。そして、新たな仲間に入会式、新人セミナーを経験していただき、今を生きる者としての責任と何事にも諦めず積極果敢に挑戦することの大切さを学んでいただきました。また、他者のために行動する意欲を持つために、新入会員が主体となって、整肢学院児童レクリエーションの企画と実施を行いました。他者の笑顔が自身の原動力となり利他の精神を心に芽生えさせることができました。さらに、様々な可能性を持った仲間と理想のまちの実現に向け、互いに切磋琢磨し目標に向かって邁進する中で、秘められた互いの自発的な行動力を引き出し、企画、運営、実施まで経験し事業を構築することの大切さ、力を合わせることの大切さを知ってもらいました。そして、これまで培ってきた経験や気づきを余すことなく表現する機会を創り、新たな仲間へと発信し更に次代を切り拓く同志を広く求め、変革者としての自覚と責任感を持つことができました。

私たちは、自らまちを創るという熱い情熱を抱き、掲げた理想に向けて何事にも諦めず積極果敢に挑戦し、他者のために行動する意欲を持ち、互いの可能性を高め合い、変革者としての自覚と責任感を持った光輝くリーダーを創出し「心」あるまち大阪を実現しました。



委員長

出口 貴之

STAFF

幹事	副委員長	委員	小上 茂樹	小林 雄	須磨 勇	田中 利和	成田 圭子	福田 ひろし	山口 貴士
徳田 正和	伊藤 勝彦	青木 香織	小川 健一	小林 洋子	角倉 力	田中 盛雄	長谷川 栄雄	藤田 恵子	山崎 誠也
中島 丈裕	大河内義之	荒川 めぐみ	押村 直志	小松原 徳人	瀬川 文武	田中 有美子	馬場 裕也	細井 信秀	山田 英範
八田 善博	鎌田 弘幸	石 義明	金川 佳永	税所 直子	高井 重樹	樽谷 隆弘	濱野 裕司	堀越 博一	山本 岳二
吉井 雅俊	河野 尚樹	石倉 達也	金沢 浩一	坂 昌樹	高波 幸治	辻野 晃弘	原 英彰	間嶋 靖典	和多田 泰久
		田淵 慎哉	伊藤 豊	烏山 崇	阪口 誠弘	高橋 和哉	十川 知芳	原田 智子	松下 正平
		長尾 朋成	稻山 敦子	菊岡 道行	佐藤 孝英	高橋 弘樹	富田 かおり	東浦 光利	松田 有紀子
		橋本 充雄	井上 陽介	岸 瞬展	澤村 洋介	高橋 良門	友井 亮輔	備前 秀和	松山 和徳
		平原 和之	上原 英雄	北川 希美	塙田 納	田川 英紀	中井 順一	日野岡 信一朗	宮秋 賢三
		藤田 廣志	大芝 恒太	北山 以珠美	塙田 祐大	竹澤 理	中居 由男	姫嶋 大輔	宮本 恵美子
		山口良里子	大西 雅也	藏重 篤史	信田 光晴	竹村 紀宏	中村 恒太	平川 智咲子	村井 敦
			大橋 弘幸	児島 篤志	芝 健一郎	多田 昌世	中邨 義英	廣瀬 一平	森田 佳代子
			大東 俊也	小畑 剛平	鈴木 あかり	田中 大介	夏山 純也	深井 光雄	保井 美紀



JCI大阪発信委員会

JCI Osaka Promotion Committee

■ 基本方針 より良いまちを次代に送り継ぐ責任を自覚し、未来に繋がる新たな一步を踏み出す人びとを溢れさせます。

私たちは、まちの現状を自分ごととして捉え、主体的にまち創りに取り組む強い使命感を抱き、目指すべき理想のまちの実現に向け共通の目標を掲げ、より良いまちを次代に送り継ぐ責任を自覚し、未来に繋がる新たな前向きな一步を踏み出す人びとを溢れさせます。

■ 事業報告

1. 対外向け広報 会員向け広報

事業の内容 JCI大阪のブランディングに繋げるべく、運動がより効果的に展開出来るよう対外向けに広報を実施する事業
また、より一体感・統一感のある発信をすべく、情報をメンバー全員が共有出来るよう会員向けに広報を実施する事業

実施日時 通年

実施方法の工夫 統一感のある発信を目指す為、対外広報物を精査・一元管理しました。
より認知度・露出を増やす為、外部PR会社と連携、メディアキャラバンの実施や連続性のあるプレスリリースによりマスメディアとの連携を強化しました。

事業目的に達した点 メディアストラテジー会議での先行審議により理事会審議前の事業事前広報を行う事が出来ました。
事業実施日のマスメディア取材件数も増加し、「大阪青年会議所」としてテレビ・新聞等年間合計132件のメディア掲載が実現しました。

事業目的に達しなかった点 会員向け広報活動による事業・活動の情報共有が効果的に出来なかった為、様々な事業・活動に対して統一感のある発信が十分には出来ませんでした。

2. 全体事業（全体総括）

事業の内容 2013年度JCI大阪集大成である全体集約事業として、良心が循環する「心」あるまち大阪を実現するための事業
全体の運営管理・総括の役割

実施日時 10月12日(土)～14日(月)

場所・会場 大阪城西の丸庭園

参加人数 計画:一般:37,300名／大阪ワオーグ:6,806名／メンバー:419名／合計:44,525名
結果:一般:30,468名／大阪ワオーグ:7,701名／メンバー:494名／合計:38,663名

実施方法の工夫 • 事業の公平性・透明性を高める為、大阪市主催の大阪ワオーグ2013との共催としました。
• OSAKAキャッスル☆ハッスルを3回目として継続実施、また大阪のランドマークかつ歴史スポットである大阪城公園内にて開催しました。
• 大阪市が過去11年実施してきた「城灯りの景」を引き継ぎ独自にアレンジし実施しました。

事業目的に達した点 OSAKAキャッスル☆ハッスル2013また、同時開催した大阪市主催の大阪ワオーグ2013、花らんまん含め、2日間で多くのまちの人びとに参加していただきました。「心」あるまち大阪の実現をめざした各委員会事業を多くの来場者に対して発信することができ、JCI大阪のブランディングにも繋げることが出来ました。

事業目的に達しなかった点 一般的の来場者数が当初の計画を下回ったことにより、十分な達成をすることが出来ませんでした。共催事業先、関連団体との協議をより計画的に行い、事前に集客するための事前告知にも注力する必要があります。

3. 全体事業（委員会事業）

事業の内容 2013年度JCI大阪集大成としての全体集約事業
JCI大阪発信委員会としての、より良いまちを次代に送り継ぐ責任を自覚し、未来に繋がる新たな前向きな一步を踏み出す人びとを溢れさせる事業

実施日時 10月12日(土)～14日(月)

場所・会場 大阪城西の丸庭園

参加人数 計画：一般：37,300名／大阪ウォーク：6,806名／メンバー：419名／合計：44,525名

結果：一般：30,468名／大阪ウォーク：7,701名／メンバー：494名／合計：38,663名

- 実施方法の工夫**
- ・グルメグランプリ協力店舗の選定については、過去の出店者プラス新規出店者を幅広く募集し、活性化に繋げました。
 - ・また、過去優勝の2店舗にもグランプリ対象外ながら出店協力頂きました。
 - ・ペットボトルキャップ回収イベントのキャッスルキャップも同時開催し、身近に取り組めるまち創りの機会を創出し、事業後も各自で取り組め、拡がるようPRを行いました。

事業目的に達した点 来場者アンケートにて、「自分たちのまちをより良く進化させ、未来に送り継ごうという気持ちになった」との回答を多数得ることができ、多くのまちの人びとに、より良いまちを次代に送り継ぐ責任を自覚してもらう事が出来ました。また、「自分の周りの人の為や、未来の為に、何か自分自身でもやってみようという気持ちになった」との回答も多数得ることができ、併せて、実際に寄付に繋がるグルメを購入したり、エコキャップ活動にも参加してもらう等、多くの人びとに、未来に繋がる前向きな一步を踏み出してもらう事が出来ました。

事業目的に達しなかった点 一般的な来場者数が当初の計画を下回ったことにより、より多くの人びとに対して発信するという点で十分な達成をすることが出来ませんでした。共催事業先、関連団体との協議をより計画的に行い、事前に集客するための事前告知にも注力する必要があります。

私たちは、「心」あるまち大阪を実現するために、「抜けよう!想いの環を!」をテーマに掲げ、【JCI大阪のブランディング】に努めました。私たちの様々な運動をより効果的に抜けしていくために欠かせない広報活動では、メディアストラテジー（広報戦略）会議を設け、各運動の広報時期や製作物を取り纏めることにより、JCI大阪としてより統一感のある発信に注力しました。そして、メディアキャラバンの実施や継続性のある効果的なプレスリリースにより、各マスメディアとの連携を強め、様々な情報媒体での露出が大幅に増加、より効果的な運動発信に繋がり、まちに共感を広げることが出来ました。また、2013年度全体集約事業として、大阪市が主催する「大阪ウォーク2013」と共催で10月12・13日大阪城西の丸庭園にて「キャッスル☆ハッスル2013」の実施総括を行いました。その中では、当委員会事業も実施し、「大阪的グルメグランプリ」では30店舗の飲食店に出店協力、「大阪城キャンドルナイト」では大勢の方々にメッセージ行燈を作成いただきました。全体の来場者は約30,000人となり、理想のまち創りと共に取り組む機会を創り出し、まちをより良く進化させ、後世に送り渡そうとする意識を生み出すことが出来ました。並びにより多くの人びとが容易に関わることのできるまち創りの機会であり、未来のために前向きな一步を踏み出す人びとを増やすことが出来ました。

私たちは、まちの現状を自分ごととして捉え、まち創りの主体者としての強い使命感を抱き、理想的なまちの姿と共に想い描き、より良いまちを次代に送り継ぐ責任を自覚し、未来に繋がる前向きな一步を踏み出す人びとを溢れさせ、「心」あるまち大阪を実現しました。

最後になりますが、ご協力いただきました行政、各種団体、マスメディアをはじめとする企業、個人のみなさまに心より感謝申し上げます。

本当に有難うございました。



委員長

中村 渉

STAFF

幹事	副委員長	委員	岡部 芳明	小室 豊	高橋 大輔	中神 明生	橋詰 源一郎	松川 浩士	山崎 由佳
坂井 征司	井上 誠	青山 達至	小川 夢子	斎藤 町子	高橋 佑太	中川 貴嗣	畠 伸太郎	村治 規行	山田 昌宏
下岡 祐一郎	大野 英昭	新井 康能	梶谷 七恵	阪野 絵理	竹下 洋司	中川 忠信	秦 龍蔵	本岡 佳小里	山野 謙介
高室 直樹	合田 竜太	稻次 啓介	桂 直樹	鈴木 圭史	伊達 将人	永島 昭彦	畠中 学	森川 祐樹	山本 貴也
森井 智士	田中 忠和	入江 薫	木内 裕	鈴木 淳	田中 大輔	鍋谷 直輝	林 裕満	森下 真男	山本 雅史
	前田 豊紀	岩本 勝浩	許 由希	高橋 顯明	土山 貴浩	西谷 香世	深井 信也	森村 洋右	
	森田 哲通	大和田 陽子	熊野 賢	高橋 浩司	磨谷 慎太郎	二宮 彰久	福本 義人	八木 重治	



子どもの「心」育成室

Office to Nurture Children's Hearts

築こう未来に繋がる関係を!

子どもの未来創造委員会

- キッズチャレンジ

子どもの良心育成委員会

- 社会人講師

親子の「心」育成委員会

- わんぱく相撲



室長

城阪 千太郎

本年度、私たち子どもの「心」育成室では、子どもたちが創るより良い未来を伴に思い描き、取り巻くすべてとの関わりの中で確固たる根幹を育み、自らの姿勢で子どもたちのより良い将来を導く人びとで溢れていなければならぬと考えました。そのためには、子どもに変わることのない規範と自らの経験則を送り継ぎ、将来への原動力となる個性や想像力を育み、あらゆるものとの支え合いの関係に対して感謝する心を持ち、自らが模範となる行動で子どもたちを導く使命感に溢れる有益な関係を構築することを目的に様々な運動を展開して参りました。

子どもの未来創造委員会では、他者のことを自分ごととして捉えることのできる闇達な子どもの心を育むことを基本方針として掲げ、大阪市内の小学5年生、6年生20名を対象に、有識者の皆様による選考会をはじめ国内での6回のプログラム、オーストラリア・シドニーでの国際交流体験では、現地の同年代の子どもたちとファームスティ、ホームスティ、現地小学校での共同プログラムなど様々なプログラム、原体験を通じて、様々な事柄に対して関心を抱き、広い世界の新たな存在を知り、何事に対しても果敢に挑戦し、習慣や環境の違いを受け止め、他者のことを自分ごととして捉えることのできる闇達な子どもの心を育むことが出来ました。

子どもの良心育成委員会では、次代を担う子どもたちを社会全体で育てる意識を高めることを基本方針として掲げ、大阪市内の小学校を対象に2007年より様々なニーズに対応しながら社会人講師事業を展開して参りました。

2013年度の社会人講師の特色として、委員会メンバーだけではなく、大阪青年会議所メンバー、さらには地域企業、各種団体に幅広くお声掛けをし、ご賛同を頂き幅広い分野の方々に社会人講師として教壇に立っていただくことで、子どもたちと共に現状と向き合い、子どもたちの個性や想像力を余すことなく引き出し、次代を担う子どもたちを社会全体で育てる意識を高めることが出来ました。

親子の「心」育成委員会では、支え合いの気持ちをもって人生を切り拓く子どもたちの豊かな心を育む意識をたかめること基本方針として掲げ、本年度で第32回を数えるわんぱく相撲では、大阪市教育委員会をはじめ多くの皆様、ボランティアの皆様にご協力を頂戴し、1000名を超える大阪市内の小学生、保護者の皆様にご参加を頂き、相手を敬う気持ちや礼節を重んじ自身より他者を優先する子どもたちの豊かな心を育む意識を高めることが出来ました。また、大阪青年会議所全体事業「キャッスル☆ハッスル2013」にて、英知継承プロジェクトとして、親から子へ伝えなければならないことや自身が親から受け継いできたことを再認識して頂き、未来を贈り継いでいく責任を自覚して頂くことが出来ました。

本年度、子どもの「心」育成室では、「築こう未来に繋がる関係」を室テーマに掲げ様々な事業を行い、各委員会が力を合わせることで、「心」あるまち大阪を実現することが出来ました。

一年間ありがとうございました。

子どもの未来創造委員会

Committee to Create a Future for Children

■ 基本方針 他者のこと自分ごととして捉えることのできる闘達な子どもの心を育んでいきます。

私たちは、身の周りにある様々な事柄に対して関心を抱き、広い世界の新たな存在を感じ取り、失敗を恐れることなく果敢に挑戦し、異なる習慣や取り巻く環境の違いを受け止め、他者ることを自分ごととして捉えることのできる闘達な子どもの心を育んでいきます。

■ 事業報告

1.JCI 大阪キッズチャレンジ

事業の内容	有識者による選考会
実施日時	5月29日(水)
場所・会場	大阪青年会議所事務局
参加人数	計画:有識者:4名 結果:有識者:4名
実施方法の工夫	映像による100名を超える応募のあった作品の選考を行うにあたり、有識者を交えた様々な視点で行いました。
事業目的に達した点	選考基準に則り、対象者20名、次点10名を選出することができました。
事業目的に達しなかった点	特になし

2.JCI 大阪キッズチャレンジ

事業の内容	第三者面談
実施日時	6月22日(土)
場所・会場	大阪青年会議所事務局
参加人数	計画:応募児童:20名 保護者:20名 結果:応募児童:20名 保護者:20名
実施方法の工夫	選考会で選出された児童とその保護者に、参加意思の確認を直接面談という形で実施しました。
事業目的に達した点	国内のみではなく、国際交流体験も含む事業への理解と、全事業への参加意思確認を行うことができました。
事業目的に達しなかった点	特になし

3.JCI 大阪キッズチャレンジ

事業の内容	国内グループワーク①②
実施日時	7月6日(土)・7月7日(日)
場所・会場	大阪青年会議所事務局
参加人数	計画:キッズチャレンジ参加児童:20人 結果:キッズチャレンジ参加児童:20人
実施方法の工夫	事業を実施していくにあたり、男子2名、女子2名の計4名のチームを5つ作り、全てのプログラムをチーム単位で行いました。また、アイスブレイクにゲームを用い、身の周りにある様々な事柄に対して関心を抱く学びなどをスムーズに実施できるよう工夫しました。
事業目的に達した点	子どもたちにとって身の周りにある、普段当たり前にあるものが、実は世界との結びつきがあり、繋がっているということに気付いてもらうために、食材をテーマに、それが日本のみならず世界から日本に来ていることを産地マップを作りながら理解し、子どもたちに世界の広大さと様々な事柄への探求心を持ってもらうことができました。
事業目的に達しなかった点	JCIシドニーとの連携が取れず、渡航前に現地の子どもたちと目に見える形で交流を行うことが出来ませんでした。

4.JCI 大阪キッズチャレンジ

事業の内容	国際交流体験
実施日時	7月25日(木)～7月31日(水)
場所・会場	オーストラリア・シドニー
参加人数	計画:キッズチャレンジ参加児童:20人 結果:キッズチャレンジ参加児童:20人
実施方法の工夫	現地の子どもたちとの交流の機会が数多く持てるよう、ファームステイ、ホームステイ、現地小学校などでのプログラムを盛り込みました。ファームステイでは気候や環境の違い、ホームステイでは生活習慣や街並み、現地小学校ではそれまで共に過ごしてきた子どもたちの通う小学校で実際に授業と一緒に受講できるよう工夫しました。
事業目的に達した点	海外という異なる環境の下で、現地の子どもたちと共に同じ時間を作ることにより、自ら考え行動しなければならないことに気づき、積極果敢に挑戦しようとする勇気を芽生えさせ、様々な違いを現地に行くことで、すべての五感を使い素直に受け止めることのできる大きな心を育むことが出来ました。
事業目的に達しなかった点	特になし

5.JCI 大阪キッズチャレンジ

事業の内容	国内グループワーク③ キッズチャレンジ発表会
実施日時	9月29日(日)・10月12日(土)
場所・会場	大阪青年会議所事務局
参加人数	計画:キッズチャレンジ参加児童:20人 結果:キッズチャレンジ参加児童:20人
実施方法の工夫	子どもたち同士が多くの違いを受け止めながら、自ら考え、そして共に様々なことに挑戦して乗り越えてきた国内外の経験を振り返り、それを形あるものとして残すために、子どもたち一人ひとりが、その後の人生の礎となる信条を作成しました。また、これまで得た様々な原体験を、自校の友達に発表し、拡げていくことが出来るよう工夫しました。
事業目的に達した点	これまでの様々な原体験を、そのままに終わらせることなく、しっかりと振り返り、信条として自分のものとし、これから的人生の礎とすることが出来ました。また、子どもたち同士が大勢の前でお互いに助け合いながら、自ら五感で得たことをしっかりと自らの言葉で伝えることで、改めて他者のことを自分ごととして捉え、将来の道しるべとして、決して自己を偽ることなく相手の立場や気持ちを受け止めることのできるたくましくしなやかな心、闊達な子どもの心を育むことが出来ました。
事業目的に達しなかった点	キッズチャレンジ参加メンバーの自校(小学校)との調整において、当該児童のみが学外で経験したことを発表することに理解を得られず、一部で発表会を実施することが出来なかったため、プログラム実施前に事前調整を行う必要があります。

私たちは、「心」あるまち大阪を実現するために、闊達な子どもの心を育んでいく運動として、【未来への原体験創造事業】(JCI大阪キッズチャレンジ)を実施させて頂きました。特色として、大阪市内の小学校5・6年生を対象に、応募の際の提出課題を映像によるものとし、一歩前に踏み出すきっかけとしました。そして、保護者の皆様にもご支援を頂くため、事業への理解を第三者面談という形で実施しました。また、20名の児童を4名ずつの5チームとし、各チームを小委員会ごとに担当して共にプログラムを取り進めることで、委員会メンバーにも様々な機会を創造致しました。さらに、海外で住み暮らす人びとやその環境にも目を向け、シドニーにて国際交流体験を実施いたしました。現地の同世代の子どもたちとファームステイ、ホームステイ、現地小学校でのプログラムを行い、小さな一步を踏み出せるようにすることで、結果を怖がらず、積極果敢に挑戦しようとする勇気を芽生えさせる場を創出しました。そして、現地の子どもたちと、言葉だけではなく心からふれ合う場を創出し、習慣や取り巻く環境から生まれくる様々な違いを素直に受け止めることのできる、闊達な子どもの心を育むことが出来ました。

私たちは、身の周りにある様々な事柄に対して関心を抱き、広い世界の新たな存在を感じ取り、失敗を恐れることなく果敢に挑戦し、異なる習慣や取り巻く環境の違いを受け止め、他者のことを自分ごととして捉えることのできる闊達な子どもの心を育み、「心」あるまち大阪を実現しました。

最後になりますが、ご協力頂きました行政、学校、団体、個人の皆様に心より感謝申し上げます。

本当に有難うございました。

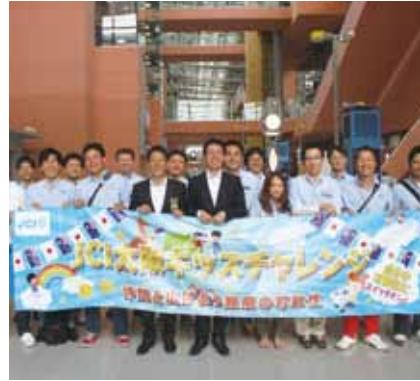


委員長

小川 徹朗

STAFF

幹事	副委員長	委員	上羽 東悟	川崎 史裕	正田 智也	玉木 智哲	中林 尊信	堀北 晶子	吉田 拓
小嶋 隆文	大森 貴之	有川 陽介	浦本 佳則	木村 昌衛	菅 繁伸	徳村 聰	箸本 陽介	南 収平	吉鷹 康寿
小淵 隆大	加藤 慶太	石床 敏	大浦 徹	清岡 義教	杉浦 由華	富田 博文	濱永 健太	宮下 致男	吉谷 泰彰
中村 圭佑	西出 誉	石橋 達也	岡野 守晃	吉良 俊彦	枚田 訓之	友田 光昭	半田 貴子	宮本 高明	依田 雅
米倉 健太	藤田 欽也	伊藤 智基	岡本 英俊	小森 省吾	竹上 新治	中井 敏	髭 義隆	村上 瑞穂	
	村尾尚太郎	井戸本 圭司	小野田 仁	佐川 宏治	田中 崇公	中川 利治	堀 志帆	湯田 善規	



子どもの良心育成委員会

Committee to Instill Morality in Children

■ 基本方針 次代を担う子どもたちを社会全体で育てる意識を高めます。

私たちは、子どもたちと共に現状と向き合い、常に模範であるということを認識し、社会との密接な繋がりの中で生かされている事実を伝え、未来を創造する独自性や想像力を余すことなく引き出し、次代を担う子どもたちを社会全体で育てる意識を高めていきます。

■ 事業報告

1. 子どもの良心発露事業（社会人講師）

事業の内容	出前授業を通じ、大人の子どもを社会全体で育てる意識を高める事業。
実施日時	5月12日(日)～3月31日(月)
場所・会場	大阪市内の学校
参加人数	計画:5916人 結果:60授業実施予定。5916人予定。現時点において予定どおり授業実施中。
実施方法の工夫	社会全体で子ども達を育てるために、地域の大人に授業の講師を担当してもらった。また、授業を受けた子どもが周囲の人と話をする機会を提供し、大人の意識に変革をもたらすことを意識した。
事業目的に達した点	数値目標をいずれも達成見込み。子どものみならず、地域の大人も意識に変革が生じた。子ども達を社会全体で育てようという大人達の意識は、メディアでも取り上げられる程の効果を及ぼし、社会人講師授業の様子が、読売新聞や大阪日日新聞でも取り上げられた。また、その影響は教育委員会の大人口にも波及し、近々、大阪市教育フォーラムでも取り上げられる予定。
事業目的に達しなかった点	無し。

2. 子どもの良心発露事業の企画と実施（自然体感）

事業の内容	昔遊びや、お米の糊摺り体験体験を通して、大人の子どもを社会全体で育てる意識を高める事業。
実施日時	10月12日(土)・13日(日)
場所・会場	大阪城西の丸庭園
参加人数	計画:数百人 結果:数百人
実施方法の工夫	社会全体で子ども達を育てるために、地域の大人に子ども達と一緒に自然の体感を行ってもらった。自然体感ブースを複数設け、子ども達のみならず大人達にも大地も恵みを体感してもらい、ひいては大人と子どもが自然界の根底からつながっていることを感じてもらい、将来の大人達を社会全体で育っていくことを意識した。
事業目的に達した点	多数の大人と子どもがブースに立ち寄り、自然の体感と大地レベルでの社会的つながりを感じてもらうことが出来た。これにより、大人の子どもを社会全体で育てる意識が革新的に高まった。
事業目的に達しなかった点	無し。



私たちは、「心」あるまち大阪の実現をめざして、一年を通して、次代を担う子どもたちを社会全体で育てる大人の意識を高める運動として、【子どもの良心発露事業】（社会人講師授業・自然体感事業）を行わせて頂きました。本年度の社会人講師事業の特色としては、授業を受けた子ども達が帰宅後に、保護者、そしてその周りの大人に対して授業の内容を話しさらに意見をもらいコミュニケーションをはかることができる「子どもインタビュー」を実施しました。そして講師に関しましては、委員会メンバーだけでなく、大阪青年会議所全メンバー、さらには地域企業、団体、そして個人の社会人講師に迄幅広く募集し、初等教育を専門に活動する組織と共に教育プログラムを作成し、様々な社会人講師を産みだし教育機関のニーズに幅広く対応する事が出来ました。そして通常の授業時間だけではなく、放課後の「いきいき」の時間にも拡がり、高学年層だけではなく、低学年層にも出前事業を展開し、多くの大人達と関わる機会を創ることができました。そして全体事業時には、「ビバ・遊ビバ」と題して、大人に対して、子どもの現状を再認識できる機会や、取り巻く自然との密接なつながりに触れる機会である、コミュニケーションが主体の昔遊び体験や、常日頃食する、お米の農作業の1つの紹介を通して、成り立ちや苦労を認識する体験を実施し沢山の大人の意識に働きかけることができました。

私たちは、子どもと共に現状と向き合い、常に子どもたちの模範として行動し、取り巻く社会との密接な繋がりを伝え、子どもたちの個性や創造力を余すところなく引き出し、次代を担う子どもたちを社会全体で育てる意識を高め、「心」あるまち大阪を実現します

最後になりますが、一年間を通してご協力いただきました行政、学校、各種団体、企業、個人のみなさまに心より感謝申し上げます。

本当に有難うございました。



委員長

赤阪 靖之

STAFF

幹事	副委員長	委員	大西 浩平	坂井原 正光	田村 大作	中嶋 啓介	原 有佳里	堀江 雄一郎	村井 柚文
阪口 小百合	荒木 清樹	渥美 宙	奥野 正己	里内 博文	土井 龍輔	中谷 洋輔	坂東 善夫	本田 祐輔	山田 隆則
恵山 幸由	池上時治郎	石塙 太一	奥村 果瑞宮	昭野 元宏	道風 真里子	中辻 史記	東原 栄志	松岡 優飛	吉川 美聖
西尾 淳	江川 浩司	泉田 裕史	小野山 匠海	洲鎌 智	利本 萬徳	西川 智子	平松 知也	三上 則行	吉田 貴俊
溝畑 泰生	中川 正義	繪所 尚也	梶川 健介	節和 寿志	中井 章裕	西村 信一	藤村 一朗	光本 圭佑	淀 雅和
		山崎 克将	圓藤 政臣	北野 泰弘	立川 幸治	長崎 忠雄	濱口 忠	古屋 栄二	武藏 国弘





親子の「心」育成委員会

Committee to Instill Morality in Parents

■ 基本方針 支え合いの気持ちをもって人生を切り拓く子どもたちの豊かな心を育む意識を高めていきます。

私たちは、自身を取り巻くすべてとの繋がりに感謝し、社会を構成する一員として礼節を重んじ、常に自身よりも他者を優先し、過去から変わることのない規範を尊重し、支え合いの気持ちを持って人生を切り拓く子どもたちの豊かな心を育む意識を高めていきます。

■ 事業報告

1. わんぱく相撲の企画と実施

事業の内容	第32回大阪市長杯わんぱく相撲大会
実施日時	5月12日(日)
場所・会場	大阪府立体育会館
参加人数	計画:1,500人 結果:1,024人
事業目的に達した点	・周囲の人に礼儀を重んじる事が大切だと感じる事が出来た親は88%でした。 ・子どもとの心のつながりを実感できた親は91%でした。

事業目的に達しなかった点 特になし

2. 親子の英知継承事業の企画と実施

事業の内容	英知継承プロジェクト
実施日時	10月12日(土)・13日(日)
場所・会場	大阪城西の丸庭園
参加人数	計画:100組 結果:101組

事業目的に達しなかった点 特になし

私たちは、「心」あるまち大阪を実現するために、一年を通して、子どもたちの豊かな心を育む意識を高める運動として、『わんぱく相撲事業』と『親子の英知継承事業』を行わせて頂きました。わんぱく相撲では第32回を数え、本年度は、当日の「礼」を奨励し、開会式や各土俵取組前後の握手する場所を提供することにより、相手を敬う気持ちと礼儀を持って接することの大切さを理解できる大会にすることができました。そして、同日に親子フェスタ2013を開催することで、わんぱく相撲出場者以外の子どもたちが来場する仕掛けを創り、親子がひとつの事を協同する機会の大切さを感じて貰い、事業当日だけでなく帰宅後も親子の「心」の育成に繋がったと考えます。さらに、親子の英知継承事業においては、大阪青年会議所の全体事業である「キャッスル☆ハッスル2013」にて、親が子どもに伝えたいことや今まで経験したこと、自分が親から受け継いできたことを思い出してもらい、新たに子どもへ受け継いでもらいたいことを子どもと共有する機会を創り出すことにより、いつの時代も大切に守られてきた規範を決して途絶えさせることなく受け継ぎ、未来へ贈り継いでいく責任を自覚してもらいました。

私たちは、取り巻くすべてとの繋がりに感謝し、社会を構成する一員として礼節を重んじ、常に自身よりも他者を優先し、変わることのない規範を尊重し、支え合いの気持ちで人生を切り拓く子どもたちの豊かな心を育む意識を高め、「心」あるまち大阪を実現しました。

最後になりますが、ご支援いただきました大阪市教育委員会、学校、各種団体、企業、個人の皆さんに心より感謝申し上げます。

本当に有難うございました。



委員長

谷間 真裕

STAFF

幹事	副委員長	委員	榎本 剛士	河東 猛	塙野 多永子	坪内 基真	朴 憲久	穂積 隼人	柚野 寿和
江口 雄三	池上 嘉晃	青山 友和	大垣 有作	川田 貴亮	嶋袋 雅之	徳田 幸修	原田 修彦	松田 大治	幸松 哲也
新川 高広	川崎 勝郎	足立 洋平	岡崎 陽一	木村 隆行	杉立 慎太郎	中島 聖智	深田 博司	美崎 伸明	吉川 伸明
神野 貴勝	神農 将史	石金 正彦	小川 孝史	木村 真規	竹垣 敦啓	西川 宣輝	福西 眞也子	水野 成浩	
槇本 昭之助	辻本 和久	岩本 樹明	沖 寧能	越田 泰生	塙本 慶太郎	西村 文勝	福原 憲人	森下 憲太郎	
	八木 弘晃	上野 剛嗣	奥田 知之	後藤 晋司	津川 裕介	新田 雄士	古川 健一郎	山本 義継	





まちの「心」創造室

Office for Creating an Urban Heart and Soul

力を合わせ、未来のまちを創造しよう!

まちの良心循環委員会

- まちの良心循環事業

まちの連携推進委員会

- 選挙にいったんで!プロジェクト
- 社会イノベーター公志園



室長

原田 泰始

まちの「心」創造室では、「心」あるまち大阪の実現には、過去から連綿と続くまちへの愛着と誇りを心に宿し、次代に向け解決すべき課題とニーズを的確に捉え、それぞれの主体者が知恵と能力を結集し、理想のまちを描く豊かな想像力を育み、他者を想い支え合う有機的な関係が必要と考え、そのために、先人たちが創りあげてきたまちの未来を創造する気概を有し、まちの様々な事象に対し関心を抱き、現状から果たすべき役割を認識し、希望溢れる未来像を想い描く発想力を持ち、人びとの想いと力を繋いで能動的に行動する人びとをまちに溢れさせることを目標に運動を展開してまいりました。

なにわ淀川花火大会運営への協力を通し、私たちのまちの成り立ちは先人たちの想いが重なり築かれてきたことに関心を抱き、社会が支え合いにより成り立つ事実を理解し、そして、まちの良心循環事業では淀川「花は咲く」プロジェクトを行い大阪市北区役所様との共催、ヤンマー株式会社様の協力のもと、良心の花を咲かせよう～一粒の種がまちを変える～と題し、淀川河川敷の一部を大阪市民の皆様と共に整地し、れんげの種をまき、花を咲かせることによって、まちに住み暮らす人びとがより良い未来を見据え、身近なことから前向きに取り組み、自身が受けた厚意を他者へと贈り拡げる人びとを増やしました。

また、未来選択事業においては、当事者意識の低下や、自分さえ、今さえ良ければといった個人主義によって、しっかりと未来を見据えて行動しようとする意識が低下してきており、自分たちの行動で未来をより豊かにできるという意識を高めていくために、ターゲットを若年層に絞り選挙に立候補した候補者の声を、若年層に影響力を持つソフトを有効活用し、よりまちの事を身近に、より深く考えることによって自らの意思で創りあげるより良い未来を想い描き、さらに、まちの主体連携事業では近年の地域社会における問題を解決し、より良い未来を創造していくために活動している社会イノベーターの活動に触れる機会を提供することによって、私たち自身が住み暮らすまちを大切に想い、まちの現状を俯瞰に捉え、一人ひとりが主体者としての果たすべき役割に対して能動的に取り組み、行政や市民、企業やNPOなどの団体といった主体者が各々の立場を越え互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高めました。

大阪に住み暮らす人びとが、私たちのまちは過去から連綿と続くまちへの愛着と誇りを胸に抱き、まちをより良く変えることが出来ることは自分であるという意識の上で自らが果たすべき課題を的確に捉え、それぞれの持つ知恵と能力を結集し、より良い未来を想い描く豊かな想像力を備え、他者のことを想い支え合う人びとを溢れさせることが必要です。

まちの良心循環委員会

Committee to Propagate Morality in Osaka

■ 基本方針 自身が受けた厚意を他者へと贈り拡げていく人びとを増やしていきます。

私たちは、人びとの想いが重なり築かれてきたまちの姿に関心を抱き、社会は支え合いで成り立つ事実を理解し、より良い未来を見据え為すべきことを捉え、身近なことから前向きに取り組み、自身が受けた厚意を他者へと贈り拡げていく人びとを増やしていきます。

■ 事業報告

1. まちの良心循環事業の企画と実施 第1回～第6回淀川「花は咲く」プロジェクト

事業の内容	参加者にまちの現状を認識したうえで、自身の身近にあるまちのためにできることを考える力を養ってもらい、種まきという身近な行動に取り組むことで、人びとの心の中に元来持ち合わせている人やまちのためにためらうことなく一歩踏み出し行動できる気持ちの大切さを強く認識してもらう事業
実施日時	3月20日(水)・4月21日(日)・5月19日(日)・7月6日(土)・9月14日(土)・10月19日(土)
場所・会場	淀川左岸線建設設計画地 約1km
参加人数	計画:対外:1500名/メンバー:862名/合計:2362名 結果:対外:746名/メンバー:846名/合計:1592名
実施方法の工夫	事業に向けて、実施場所にて花を咲かせる環境を整えるため不法投棄を廃棄し、ヤンマー様、地元園児達の協力のもと、石の取り除き作業並びに耕運作業を行いました。 事業当日の運営を円滑にするため、事前に種まき講習会を行いました。

事業目的に達した点 アンケートにて、一人ひとりの行動でまちは変わっていくことを感じてもらい、参加してよかったですという意見や今回のプロジェクトに参加して、まちのために身近なことに前向きに取り組んでいこうと思うという回答を多数いただきました。また、事業の実施後、北区役所以外の区役所や市民の方から、当事業に共感して頂き、事業を行ってもらいました。

事業目的に達しなかった点 一般参加者が計画人数を大きく下回ったことにより、厚意を他者へと贈り拡げていく人びとを増やしていくことを目的に十分に達することができませんでした。一般参加者を集客するための仕掛けが必要です。

2. なにわ淀川花火大会運営への協力

事業の内容	先人たちから受け継がれてきたまちが、自分たちの手でより良く創りあげようとする人びとの想いによって形成され、その深い想いや真摯な取り組みを感じてもらい、まちを想い集う場において地域社会の発展を願い活動している人びとと一緒にでも多くのまちの人びとが共に活躍できる場を提供する事業
実施日時	8月10日(土)・8月11日(日)
場所・会場	淀川堤防一帯
参加人数	計画:事業当日 合計:558名(一般:200名/メンバー:358名) 翌日清掃 合計:858名(一般:500名/メンバー:358名) 結果:事業当日 合計:625名(一般:148名/メンバー:477名) 翌日清掃 合計:702名(一般:440名/メンバー:262名)
実施方法の工夫	当日の運営をより潤滑にするために出来るだけ多くのメンバー並びにボランティアの方に参加していただきました。

事業目的に達した点 アンケートにて、花火大会の歴史・民間の力・ボランティア活動の様子・ゴミの現状を理解してもらい、先人達が築きあげてきた素晴らしい取り組みがあることを知ってもらい、自らも住み暮らすまちをより良くする活動に主体的に関わる気持ちを高めることができました。また、多くのまちに住み暮らす人びとに、一人の力では成し遂げることのできない目的に対しても多くのまちの人びとが気持ちを一つにすることできちんと支えることができることに気づいてもらうことができました。

事業目的に達しなかった点 社会は支え合いで成り立つ事実を理解する人びとを増やしていくためのリーダーを育成する目的に対し、33%の方から観覧者のゴミの分別に対しての意識が低く分別に協力してくれなかったという意見がありました。社会は支え合いで成り立つ事実を理解する人びとを増やしていくためのリーダーを育成する目的に対し、7%の方が体調不良や作業の指示が悪かったなどの理由で率先して活動することができなかつたという意見がありました。

3. 全体事業の準備と参画 まちの良心循環事業の企画と実施

事 業 の 内 容	大阪市内各区から募ったボランティアを中心に、創作で各区を代表して花壇を作成してもらい、また、花壇の作成者をはじめとする大阪のまちに住み暮らす人びとに、花と緑に関するクラフト教室を行ってもらう事業
実 施 日 時	10月12日(土)・13日(日)
場 所 ・ 会 場	大阪城公園西の丸庭園内
参 加 人 数	計画:グリーンコーディネーター:51名/委員会メンバー:32名 結果:グリーンコーディネーター:51名/委員会メンバー:32名
実 施 方 法 の 工 夫	クラフト教室のブース近辺にてバルーンアートを行い、またバルーンを持って来場者に対しクラフト教室への勧誘活動を行うことにより、地元ボランティアの方々により多くの経験の伝承・厚意の拡散の機会を創出することができ、他者のために行動することの喜びをより多く感じてもらえる。
事業目的に達した点	大阪市内各区から募ったボランティアによる花壇を21区設営してもらい、さらに第6回淀川「花は咲く」プロジェクトへ地元ボランティア・クラフト教室参加者に参加していただきました。
事業目的に達しなかった点	第6回淀川「花は咲く」プロジェクトの参加人数が目標の50人に達しませんでした。もっと早期からのコミュニケーションの確立が必要です。

私たちは「心」あるまち大阪を実現するために、まちに良心を循環させていく運動としてまちの良心循環事業の企画と実施「淀川「花は咲く」プロジェクト」を実施させて頂きました。特色としてまちにある様々な物ごとの大小に捉われず誰もができることに取り組む場を提供し、人やまちのために一歩踏み出すことの大切さ、さらに人を思いやる心で行動することが未来を変えていくことを感じる機会を創出し、自身が他者から受けた、人のために力になりたいという行動への感謝とともにその想いを自らが他者へと贈り拝げていく人びとを増やしていくことが出来ました。また8月には「なにわ淀川花火大会の運営への協力」を実施させて頂きました。地域の発展を願い活動している人びとともにまちの人びとが活躍できる場を提供することで一人の力でなし遂げることのできない目的に向け助け支え合い行動する素晴らしいを共感してもらうことが出来ました。そして、全体事業にて大阪市役所との共催で「花らんまん2013」を開催させて頂きました。各区のボランティアの方々に経験の伝承、厚意の拡散の機会を創出することができ、他者のために行動することの喜びを多くの人びとに感じてもらいました。

私たちは、先人が築いたまちの姿に関心を抱き、社会は支え合いで成り立つ事実を理解し、より良い未来を見据えぬすべきことを捉え、身近なことから真摯に取り組み、自身が受けた厚意を他者へ贈り拝げていく人びとを増やし続け「心」あるまち大阪を実現しました。

最後になりますが、一年間を通してご協力いただきました行政、企業、学校、各種団体、個人のみなさまに心より感謝申し上げます。

本当に有難うございました。



委員長

高橋 康智

STAFF

幹事	副委員長	委員	上原 大助	尾崎 宏明	篠原 立郎	芹奈 廉一	中川 謙治	三品 龍介
下田 大輔	佐々木琢郎	新井 善久	上村 千代	柿本 陽子	篠原 基宏	竹下 達也	西田 伸祐	宮崎 俊隆
田中 良明	出口 一馬	有光 克敏	上村 敦大	加藤 伸隆	白崎 譲隆	武田 智宏	畠井 伸哉	宮下 修
中島 章吾	中西 基晴	安藤 大介	岡 愛一郎	金本 裕己彦	菅原 知	辰巳 幸司	播磨 克彦	森岡 将太
羽原 功俊	中森 章	伊藤 美恵	奥野 雅明	川合 竜夫	鈴木 慶	田中 剛志	前田 貴弘	森田 陽子
	花木 浩二	岩谷 良平	奥村 直謙	草分 陽一	関口 正輝	丹波 英太郎	松下 兼久	諸岡 憲悟
		上田 佳世	奥山 淑英	阪野 瑞穂	世古口 佳典	遠越 栄一	松下 昌史	山本 健一朗





まちの連携推進委員会

Committee to Promote Partnerships
Between Organizations in Osaka

■ 基本方針 互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高めていきます。

私たちは、住み暮らすまちを大切に想い、まちの現状を俯瞰的な視点から捉え、自らの意思で創りあげるより良い未来を想い描き、一人ひとりが主体者としての果たすべき役割に対して能動的に取り組み、互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高めていきます。

■ 事業報告

1. サイト版 選挙にいったんで！プロジェクト

事業の内容	第23回参議院議員通常選挙に向けて、立候補予定者の政策を比較することができる特設ホームページを設置し、若年層に自らの意思で創りあげるより良い未来を想い描く意識を高めてもらう事業。
実施日時	6月5日(水)～7月21日(日)
場所・会場	特設ホームページ上
参加人数	ユニークユーザー数:16,795名／ページビュー数:54,332PV
実施方法の工夫	未来選択事業として若年層にターゲットを絞り、今まで選挙に行ったことがない人に自分ごととして捉えてもらうことに拘って事業を構築しました。また、若年層に人気のあるアイドルを推進リーダーに任命し、ブログなどでの呼びかけを行ってもらうとともに、公式Facebookページ、Twitterでの情報発信を継続的に行っていくことで、特設ホームページとの相乗効果を図りました。

事業目的に達した点 早い段階から公認が決まっていた候補者に対しては、事前に趣旨を説明し、若年層に向けた政策を分かりやすく話していただきましたので、多くの人びとに政策の違い等を理解した上で、未来を想い描く意識を高めてもらうことができました。

事業目的に達しなかった点 直前に立候補が決まった一部候補者に対して、継続的に連絡を取り続けましたが、スケジュールが埋まっており、政策比較のビデオ撮影ができませんでした。

2. 劇場版 選挙にいったんで！プロジェクト

事業の内容	第23回参議院議員通常選挙に向けて、立候補予定者の政策を直接聞いて比較してもらえるように公開討論会を開催し、若年層に自らの意思で創りあげるより良い未来を想い描く意識を高めてもらう事業。
実施日時	7月2日(火)
場所・会場	コングレコンベンションセンター
参加人数	計画:一般:300名／メンバー:325名／合計:625名／ニコニコ生放送視聴者数:10,000名 結果:一般:240名／メンバー:313名／合計:553名／ニコニコ生放送視聴者数:26,226名
実施方法の工夫	未来選択事業として若年層にターゲットを絞り、今まで選挙に行ったことがない人に自分ごととして捉えてもらうことに拘って事業を構築しました。また、若年層に人気のあるアイドルを推進リーダーに任命し、特設ホームページ等との連動により、今まで政治に関心のなかった人に参加してもらえるように取り組みました。

事業目的に達した点 今まで選挙、政治は難しいものと考えていた人びとに参加してもらうことができましたので、今回の参院選も自分に関係あることとして捉えてもらうことができました。また、ニコニコ生放送での同時中継を、公式放送として扱ってもらうことができましたので、事前告知を行ってもらうことができ、会場内だけでなく、インターネットを通じても多くの人びとに未来を想い描く意識を高めてもらうことができました。

事業目的に達しなかった点 今回は推進リーダーとしてアイドルを起用した反面、プロのコーディネーターを起用することができなかった。その為、パネルディスカッションにおいて、より興味を引くような話題を引き出すことができなかった。また、一般参加者の申込方法が複雑であったこともあり、予想していたよりも参加者が少なかった。

3. 社会イノベーター公志園 第3回開会式・リーダーシップフォーラム

事業の内容 地域や国、海外の問題の解決に、「志」を持って挑んでいる社会イノベーター。第1回、第2回の公志園フェローの現在の活動や、第3回大会の出場者の想いを聞いてもらうことで、一人ひとりが主体者としての果たすべき役割に対して能動的に取り組む意識を高めていく事業

実施日時 9月28日(土)

場所・会場 中央公会堂

参加人数 計画:公志園関係者:150名／一般:320名／メンバー:199名／合計:669名

結果:公志園関係者:82名／一般:132名／メンバー:242名／合計:456名

実施方法の工夫 NPO法人ISLとの共催事業であり、JCI大阪としては集客部分を担いました。開催日間近まで変更等がありましたが、スマートな対応を心掛けました。

事業目的に達した点 地域や国、海外の諸問題に対しての取り組みを行っている公志園出場者の想いに触れ、一人ひとりが主体者としての果たすべき役割に対して能動的に取り組む意識を高めることができました。

事業目的に達しなかった点 参加予定人数を大幅に下回り、一人ひとりが主体者としての果たすべき役割に対して能動的に取り組む意識を十分に高めることができませんでした。

4. 全体事業 大阪24区“ええとこ”PR合戦 まちの主体連携事業

事業の内容 大阪市内の24区役所に全体事業の会場にお越しいただき、各区にあるええとこをPRしていただく過程において、住み暮らすまちを大切に想い、まちの現状を俯瞰的な視点から捉え、一人ひとりが主体者としての果たすべき役割に対して能動的に取り組み、互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高めてもらう事業。

実施日時 10月12日(土)・13日(日)

場所・会場 大阪城西の丸庭園

参加人数 計画:24区からの参加 結果:19区から参加

実施方法の工夫 24区の魅力を各区役所主体で市民や企業などと連携して発信していただくために、事前に各区役所様に訪問し、説明等を行いました。

事業目的に達した点 各区役所様より展示パネルの素材提供をいただき、また、各区のキャラクターにPRにお越しいただくことで、大阪キャッスル☆ハッスルに参加している市民のみなさまに、住み暮らすまちを大切に想う意識を高めていただきました。

事業目的に達しなかった点 各区において、区民祭りなどのイベントと時期的に重なっていたため、全ての区に参加していただくことができませんでした。

5. 全体事業 石巻日日新聞及び石巻日日こども新聞の展示 災害復興支援

事業の内容 石巻日日新聞が震災直後に避難所に貼り出した壁新聞と、こども記者が伝える被災地の現状を見ていただくことで、互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高める事業。

実施日時 10月12日(土)・13日(日)

場所・会場 大阪城西の丸庭園

実施方法の工夫 2年半が経過した現在において、東日本大震災の発災直後に誰しもが抱いた、被災地に対して何かをしたいという気持ちをより多くの方に抱いてもらうために、被災地が現在まで歩んできた道のりを効果的に伝える方法として、持ち帰り可能な石巻日日こども新聞の最新号を配布いたしました。

事業目的に達した点 大阪キャッスル☆ハッスルに参加している市民のみなさまに、互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高めていただきました。

事業目的に達しなかった点 石巻日日こども新聞を5000部配布する予定でしたが、1000部ほど余ってしまいました。チケットブースや入り口などで配布物を一括で配布するなどの工夫が必要です。

6. 全体事業 ささえあいプロジェクト 寄付金型自販機の展示

事業の内容 2012年度より展開している寄付金型自動販売機の展示を行い、災害に備え、互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高める事業。

実施日時 10月12日(土)・13日(日)

場所・会場 大阪城西の丸庭園

実施方法の工夫 各区の社会福祉協議会の方に、今後の設置に対する広報を担っていただく意識をもってもらうために、寄付金型自動販売機のチラシ配布や説明を行っていただきました。

事業目的に達した点 大阪キャッスル☆ハッスルに参加している市民のみなさまに、互いに支え合う理想のまちを創造する意識を高めていただきました。

事業目的に達しなかった点 寄付金型自動販売機によるドリンクの販売が思うように伸びなかつたため、より多くの方に寄付金型自動販売機を知っていたことができませんでした。

私たちは、本年度、「心」あるまち大阪をめざして、市民・企業・行政・NPOなどの団体といったまちの主体者が互いに補完し合い、支え合いながら共により良いまちを創っていく関係の構築に向けて活動を行いました。

7月2日に開催した公開討論会『選挙にいったんで!』プロジェクトでは、若年層にターゲットを絞り、直接立候補予定者の政策を聞いていただく機会を創ることで、自分たちのまちは自分たちで創っていこうとする意識を高めることができました。さらに、ニコニコ生放送による同時中継を行ったことや、特設ホームページで各候補者の政策を聞いていただくことで、会場にお越しいただいた方だけでなく、多くの方に運動を発信することができました。

また、地域や国、海外の諸問題に対して、経済的に自立した形での解決を図っている社会イノベーターたちが全国から集う、第三回社会イノベーター公志園、開会式を通じて、多くの方々に、まちの問題を自分ごととして捉え、身近な問題から解決していくうとする意識を高めることができました。

さらに、10月12日、13日に開催した、大阪キャッスル☆ハッスルにおいては、まちの主体連携事業といたしまして大阪市内の各区役所様による、大阪24区“ええとこ”PR合戦、災害復興支援事業といたしまして石巻日日新聞及び石巻日日子ども新聞の展示と配布、2012年度より展開しているささえあいプロジェクトとして寄付金型自動販売機の展示を行いました。

これらの事業をきっかけとしていただき、各地域や大阪市における主体者の連携がより進んでいくことを願っています。

今年度、お世話になりましたみなさまには、心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。



委員長

竹内 健祐

STAFF

幹事	副委員長	委員	延命寺 健志	北野 紀衡	坂井 政一	堤 大助	三戸 淳	門那 宏徳
梅田 佑介	五島 良平	芦田 如子	大西 正敏	北富 健嗣	更家 一徳	中川 知子	皆川 友範	山岸 大晃
大槻 高史	陣野 公司	石井 直人	大向 仁	楠本 佳弘	芝伐 佑介	中野 義晃	向井 義博	山本 肇克
竹島 幸志	杉本 智則	伊田 宗樹	小田 和幸	合田 佳史	宝本 美穂	濱 真司	村上 覚朗	山本 雅仁
富田 浩崇	早川 久美	牛渡 裕也	櫻畠 貴典	古賀 章広	田口 敦	益田 治子	村上 亮介	
	原田 崇	宇都宮 和加人	河原 由次	酒井 七郎	津郷 泰史	三浦 正行	森 一平	



世界の大阪創造室

Office to Create an International Osaka

All for a sustainable relationship

世界の良心循環委員会

- PCY事業

大阪の未来創造委員会

- TOYP事業



室長

北畠 博之

本年度、世界の大阪創造室では「All for a sustainable relationship」をテーマに掲げ「心」あるまち大阪を実現するためには、時代と共に変化する世界情勢を俯瞰的な視野から捉え、それぞれの異なる価値観を受け止め、相手を思いやる心に基づき行動し、互いを磨き合い続ける、より良い未来の創造に向けた人びとの有益な繋がりを構築するために、世界中で起こる事象があらゆるものと密接に関わっている事実を認識し、未来を共に創るすべての人びとを敬い、相互扶助の精神を携え、定めた目標に向け継続して取り組み続ける気概を有し、自らが起点となり役割を果たす人びとをまちに溢れさせることを目的に、一年間二つの委員会を通じて様々な運動を展開してまいりました。

世界の良心循環委員会では、2010年度より継続しておりますPCY事業を、拡く海外、国内から優れた学生の募集を募り、厳しい審査基準のもと60名の学生を選抜し、8月20日～26日の1週間開催致しました。本年はこの本事業をよりレベルの高いところで、国内学生と海外学生の議論を活発にするために、6月にプレPCYと称し、50名の国内学生選抜を招聘し、まる1日かけて本番に向けたシミュレーションを行いました。そして、世界平和に向けてPCYメンバーが相手を思いやる心に基づき行動することを目的とし、昨年から引き続き大阪大学星野教授、過去3年の卒業メンバーの皆様のお力添えを頂き、事業の企画、実施そしてリーガロイヤルホテル大阪にてPCYフォーラムを行い、最終プレゼンテーションを行いました。本年の特色といたしましては、5つのグループが考えた仕組みを全員で投票し、一つのプランに纏めた最終プレゼンでのアクションプランを大阪青年会議所の全体事業で実行することを大きな目的とし、使命感を湧き立たせることができたと確信しています。

また、大阪の未来創造委員会では、定めた目標に向け継続して取り組み続ける気概を有する運動を推進するために、本年で33回目を迎えるTOYP事業を主催しました。「持続可能な経済活動が世界を変える」をテーマに海外から傑出した5名のメンバーを招聘し、9月5日～10日の6日間開催致しました。中でもTOYPフォーラムでは、彼らの活動に触れる機会、ファッショニジャーナリスト生駒芳子さんを迎え、持続可能な経済活動とは何なのかを知る機会とし、継続して取り組み合う連帯感を大阪のまちの人びとに発信することが出来ました。

当室ではこれらの事業を通じて、相互扶助の精神を携え、継続して取り組み続ける気概を有する人びとをまちに溢れさせることを目的として1年間を通じて活動をして参りました。

世界情勢が刻々と変わる現在、私たち大阪青年会議所は大阪のまちの人びとに、自らが起点となり役割を果たす気概を醸成し、まちを創っていくのは自分たちであるという自覚をしてもらうことが出来ると信じて活動し続けることが大切であると考えます。

世界の良心循環委員会

Committee to Propagate Morality in The World

■ 基本方針 社会の一員としての役割を全うする気概を携えた次代を担う人びとを溢れさせます。

私たちは、世界で起こる諸問題の実情や背景と自身との関係性を自覚し、目指すべき理想の世界を思い描き、関係するあらゆる人びとを思いやる心を持ち、自らが主体的に取り組み、社会の一員としての役割を全うする気概を携えた次代を担う人びとを溢れさせます。

■ 事業報告

1. プレ PCY

事 業 の 内 容	国内学生・外国人留学生を対象にし、PCY本事業に向け1日に集約したプログラムにより意識を高め、次代を担う若者を育成する事業。
実 施 日 時	6月23日(日)
場 所 ・ 会 場	オーク4番街2F
参 加 人 数	計画: 国内学生・外国人留学生: 50名 / メンバー: 88名 / 合計: 138名 結果: 国内学生・外国人留学生: 44名 / メンバー: 72名 / 合計: 116名
実施方法の工夫	事前課題を提出してもらうことで事前に「食から派生する問題」への知識を養ってもらいました。当日、実際のPCYの雰囲気を味わってもらい、PCYで行うグループディスカッションとプレゼンテーションを模擬的に実施しました。
事業目的に達した点	アンケートの記載内容・当日の学生の様子から、当事業が学生にとって気付きの場となり、自らが主体的に取り組む意識を高めることができたと判断します。PCY本事業に向けより高い意識をもって取り組んでもらえる下地ができたと分析します。
事業目的に達しなかった点	アンケートの結果としては、プレPCYの短い期間では「これが解決策」と自信をもてる案までには至らなかったことを示しているが、プレPCYとしての目的である気付きとしての達成は果せていると考察します。

2. PCY Peace Conference of Youth 世界学生平和会議

事 業 の 内 容	国内外の学生を大阪に招き、世界平和の実現のために何ができるのか議論し、アクションプランを導き、そのプランを実行する意欲を高める次代を担う若者たちを育成する事業。
実 施 日 時	8月20日(火)～25日(日)
場 所 ・ 会 場	TKP新大阪会議室
参 加 人 数	計画: 国内学生・外国人留学生: 50名 / 海外学生: 10名 / 委員会メンバー: 48名 / 合計: 108名 結果: 国内学生・外国人留学生: 46名 / 海外学生: 10名 / 委員会メンバー: 24名 / 合計: 80名
実施方法の工夫	<ul style="list-style-type: none">議題「食から派生する様々な問題を解決する仕組みを構築しよう!」を設定することで、ターゲットを絞り、学生の力による持続発展可能な世界平和実現活動を模索しました。海外学生と効果的に価値観の違い感じ、今後の食の問題を話し合うためにパワーランチを新しく採用し、各国の食を体験してもらいました。より実行に移すことができるよう指針を定め、学生たちの手で取り組める最終アクションプランをまとめ上げました。
事業目的に達した点	自らの企画立案を必ず実行することを参加学生に意識させ続けた結果、真剣に取り組む姿勢が見られ、事業終了後も日本に残る学生を中心に企画を推進しており、本年度のマスターープランの設定並びに学生全体でプランを作り上げていったことは意義があったと考えます。さらに、PCY事業をまちの人びとに広めることを目指し、既に世界に向けて活動を発信している諸団体の協力を得ることでその関係者もまきこみ発信力を高めました。
事業目的に達しなかった点	<ul style="list-style-type: none">学生自ら取り組むことのできるアクションプランということに注意が行きすぎたことで問題への解決に向かうプランがやや控えめな内容になった。またメインフォーラムでは天候の問題もあり、一般の参加人数が大幅に目標に達しなかった。事業内容自体が関わりにくい内容であったこともあり、予想していたよりも参加者が少なかった。

3.PCY2013 メインフォーラム

事業の内容 特別講師の講演、並びにPCYで導き出したアクションプランを学生たちが発表・宣言する実体験を通して今後の継続した活動への活力を醸成するフォーラム事業。

実施日時 8月25日(日)

場所・会場 リーガロイヤル大阪

参加人数

計画:国内学生・外国人留学生:50名／海外学生:10名／一般:450名／メンバー:229名／合計:739名

結果:国内学生・外国人留学生:46名／海外学生:10名／一般:154名／メンバー:151名／合計:361名

実施方法の工夫

- PCYで考案したアクションプランを海外学生2人と国内学生2人の日英プレゼンテーションによって来場者に発表し、その後の取り組みを宣言してもらいました。
- 会場に40の国際交流協力団体をお呼びし互いの運動を紹介する場とし、同時に来場者の世界のさまざまな問題への意識を高めてもらいました。

事業目的に達した点

自らの企画立案を必ず実行することを参加学生に意識させ続けた結果、真剣に取り組む姿勢が見られ、事業終了後も日本に残る学生を中心に企画を推進しており、本年度のマスタープランの設定並びに学生全体でプランを作り上げていったことは意義があったと考えます。さらに、PCY事業をまちの人びとに広めることを目指し、既に世界に向けて活動を発信している諸団体の協力を得ることでその関係者もまきこみ発信力を高めました。

事業目的に達しなかった点

- 学生自ら取り組むことのできるアクションプランということに注意が行きすぎたことで問題への解決に向かうプランがやや控えめな内容になった。
- またメインフォーラムでは天候の問題もあり、一般的の参加人数が大幅に目標に達しなかった。事業内容自体が関わりにくい内容であったこともあり、予想していたよりも参加者が少なかった。

4. 全体事業 AiFOOD

事業の内容 PCYで導き出したアクションプランを具体的に実行に移す原体験を与えることで活動を継続的に推進する気概を醸成する事業。

実施日時 10月12日(土)・13日(日)

場所・会場 大阪城西の丸庭園

参加人数

計画:参加学生:30名／メンバー:46名 結果:参加学生:20名／メンバー:15名

実施方法の工夫

学生が考えたアクションプランを具体的に実行に移す場として事前に準備した、世界の格差を再認識してもらうゲーム、教育のテキストを準備し来場者に楽しみながら学んでいただく機会を創りました。

事業目的に達した点

学生自ら創ったアクションプランを実行に移すことが出来、今後の取り組む意欲を高めてもらうことができました。また、設営したブースに参加頂いた市民の人びとに世界との繋がりを感じて頂くことが出来ました。

事業目的に達しなかった点

一般市民の参加を多く見積もっていたが、会場全体の来場者が少なかったことと、ブースでのゲームの時間が予想以上にかかることで目標に達することができなかった。

世界の多くの問題は人間の利害関係によって生じています。これによって世界の様々な国々で格差が発生し、問題を引き起こしています。それらの問題の中でも特に生命を維持する為に最も必要なものとして食の問題があります。この問題に取り組み救われた生命は、さらに他の者の命を救う循環となり、あらゆる問題の根本原因の解決へ向かうと考えています。

本年度はそのような考えを基に議題を設定し議論をしていただくことにしました。

議題:食から派生する様々な問題を解決する仕組みを構築しよう!

この議題を通じて学生たちは身近な食の問題として「廃棄される食料」に着目しました。この廃棄食料を減らすことを通じて食べ物を大切にする意識を高め、日本から食料問題に取組んでいく人たちを増やしていくと考えました。

また、これらの取り組みを、当事業であるPCYの期間中だけでなく、事業後も創り上げたプランを具現化し、繰り返し行動する為の活力を高めてもらうために、参加学生選考後の事前課題実施、プレPCY、PCY本事業、全体事業と、一貫したアプリケーションテーマに取り組むことで具体的体験や目的感のある共同作業によって高い達成感を得て頂きました。これにより、PCY事業において作成したアクションプランを実行に移し行動への一步を踏み出しました。

本年度形作られた活動が今後も継続して続いて行ってくれることを願っています。



委員長

大野 育生

STAFF

幹事	副委員長	委員	大石 真太郎	小山 徹	且過 ちあき	日吉 廣三郎	門田 明広	羅 富生
楠木 雅和	井上 幹盛	秋吉 忍	大宗 輝義	錢高 久善	寺川 康治郎	古山 久幸	山本 元	
平井 直哉	岡本 良太	安部 穢之	大村 雅祥	田口 善隆	中川 雅照	増田 正基	山佳 誠秀	
福川 聰志	奥田 昌己	和泉 憲幸	岡本 真行	竹田 哲之助	中村 桂	宮沢 孝児	湯川 泰行	
横山 大典	折竹 一郎	市山 慎一	金山 忠広	田中 盛太	西井 重超	森高 悠太	吉澤 宏之	
	吉本 千春	上田 雅代	嘉納 秀憲	田原 洋司	西川 晃司	門司 秀晃	淀 洋和	



大阪の未来創造委員会

Committee to Create a Future for Osaka

■ 基本方針 目指すべき理想に向け継続して協力し合う意欲を高めています。

私たちは、世界のあらゆる事柄が密接に繋がっていることを俯瞰的に捉え、異なる価値観の違いを受け止め、より良いまちを次代へ繋げる責任を果たし、互いに有益となる持続可能な関係を想い描き、目指すべき理想に向け継続して協力し合う意欲を高めています。

■ 事業報告

1.TOYP 事業の企画と実施

- 事業の内容 世界より傑出した若者5名を招聘し、彼らに日本の良さを知ってもらい、他の人へ発信してもらうべく、大阪、東京の企画を考えました。
- 実施日時 9月5日(木)～9月10日(火)
- 場所・会場 大阪城・皇居・築地 他
- 参加人数 計画:TOYPメンバー:5名／メンバー:51名／合計:56名
結果:TOYPメンバー:5名／メンバー:45名／合計:50名
- 実施方法の工夫 TOYPメンバーにより日本を知ってもらい、日本のファンになってもらえるように内容・訪問先等を考えました。
- 事業目的に達した点 TOYPメンバーから、レポートにて大阪JCメンバーのホスピタリティや日本の良さについて感想をいただきました。
- 事業目的に達しなかった点 東京企画で企業訪問を予定しておりましたが、先方の代表者の都合が悪くなり、急遽東京観光となってしまいました。

2.TOYP フォーラム

- 事業の内容 まちの人びとに対して、経済活動を通した社会開発運動を知って頂く、基調講演とTOYPメンバーの活動報告を行いました。
- 実施日時 9月7日(土)
- 場所・会場 国際交流センター
- 参加人数 計画:来場者:300名 結果:来場者:252名
- 実施方法の工夫 本年度は、より良い世界を創造するために新しい判断基準「エシカル」を取り上げ、ファッション業界でその第一人者である生駒芳子先生にご講演頂き、まちの人びとに新たな気付きを与えられるようにしました。
- 事業目的に達した点 事業後のアンケートにおいてエシカルやフェアトレードの必要性を感じてもらい、また経済活動を通した社会開発運動について非常に多くの方に気付いてもらう事ができました。
- 事業目的に達しなかった点 フォーラムの参加人数が目標に届きませんでした。
来場者の確保のためにもできる限り早い時期での告知と、さまざまなメディアの活用などを検討する必要があります。



私たち大阪の未来創造委員会では、まちの人びとに対して、様々な地域に存在する社会的な課題を解決し続けるためには継続してお互いに協力し合う意識を高める必要があると考え、運動を展開してまいりました。

そのためにTOYP事業では、「支え合うまちの創造」～持続可能な経済活動が世界を変える～をテーマとして、世界中より将来を嘱望される傑出した青年5名を日本に招聘し、まずは彼らの実際の活動をまちの人びとにプレゼンテーションしてもらいました。それにより、まちの人びとに経済活動を通じ社会の課題を解決する活動が、継続的により良い社会を構築するためには必要であることに気付いてもらうきっかけを与える事ができました。

また、併せてTOYPフォーラムの基調講演では、ファッション・ジャーナリストの生駒芳子先生を講師としてお招きし、私達が協力すべき企業・団体を選定する時に必要な判断基準として、また社会開発運動を行う企業・団体がこれから大切にしなければならない考え方として、「エシカル（倫理的・道徳的）」という言葉について最新のファッション業界の流行を踏まえてご講演頂きました。その中から、これから消費者に選ばれる企業・団体は自社の利益だけを考えて経営をしている企業ではなく、グローバルな視点を持ち、地球にやさしい、人にやさしいといった『エシカル』という考え方を持った企業が生き残っていくことをまちの人びとに知って頂く機会となりました。

このように、この事業を通して、大阪のまちの人びとが自分の事だけを考えるのではなく、地域の事、更には世界に目を向け、自らがどういった選択をし、行動することで、より良い世界の創造に繋がるのかという事を知り、そんな良心がこの大阪から世界に拡がっていくきっかけになったと確信しております。

最後になりますが、一年間を通してご協力いただきました大阪市、各種団体、企業、個人のみなさまに心より感謝申し上げます。

本当に有難うございました。



委員長

佐藤 裕介

STAFF

幹事	副委員長	委員	植松 大介	金村 聰	税所 貴一	中島 真昭	林本 大	水野 竜完	吉村 久
吉瀬 昇	金澤 学	青山 修司	氏田 裕吉	姜 永守	菅谷 義典	中田 耕平	廣野 恵介	村田 崇	
古賀 大介	高橋 秀智	赤坂 祐一	宇治部 英明	桐元 久佳	高橋 友香	中村 誠広	福家 一憲	盛田 悟史	
竹内 万征	本元 宏和	新井 敏之	長村 みさお	金城 聖薫	玉城 勇人	西野 嘉一	藤井 準	山内 理子	
吉田 千里	安平 晃宏	石田 貴志	香川 正和	楠 茂樹	堤 亮介	西原 広徳	二村 伸紀	山崎 紀文	
		山本 浩二	伊津 元博	加藤 元之	小島 雅士	土肥 宏彰	林 洋一	松任 鎮央	八幡 順子





渉外室

Public Relations Office

自らより良い変化の起点となろう！

国内渉外委員会

- 日本JCへの出向者支援及び連絡調整
- LOM間の交流

国際渉外委員会

- JCI事業への参加促進



室長

山本 修史

本年度、渉外室では「自らより良い変化の起点となろう！」をテーマに掲げ「心」あるまち大阪を実現するためには、自らを律し他者を思いやる心に満ち溢れ、果たすべき目標に向かって積極果敢に挑戦し続け、自分自身を取り巻くあらゆる他者との繋がりを強固にし、広い範囲にわたって共感の輪を広げ、より良い未来を創造する原動力となる組織が必要だと考えました。そして、その五つの要素を備えた組織を創造するために、自らを存在させている他者との関わりを尊重し、何事も前向きに取り組む使命感を胸に抱き、支え合いから互いが成り立つ関係を理解し、成し遂げた成果を現在や未来へと刻み込む意気概に溢れた、より良い変化の起点となるメンバーを増やし続けていくことを目的に様々な運動を展開しました。

国内渉外委員会では、日本JCへの出向者支援及び連絡調整として、各大会のLOMナイトなどにおいて出向メンバーにスポットを当て、様々な場所で活躍している人びとに関心を持ち、誰しもが多くの支え合いの中で存在していることを深く理解し、他者の成長をも自らの喜びと変えることができる、他者を思いやる心を育んできました。そして、国内渉外委員会で日本JC事業への参加促進として、日本JC、近畿地区協議会、大阪ブロック協議会などの各大会への参加促進を行い、国際渉外委員会ではASPAC光州大会、世界会議ブラジル大会への参加促進を行うとともに、各種JCIセミナーへの参加促進を行い、自らの視野を広げ大きく成長させる様々な機会に積極的に取り組み、率先して先頭に立ち目指すべき方向を示し、周りの人びとの想いを一つに合わせて大きな力へと変える、力強く牽引していく前向きな行動力を高めました。また、LOM間交流の促進として、国内渉外委員会ではJCI岡山やJCI金沢とのLOM間交流事業、そして国際渉外委員会では様々なシスターJCを各国際大会中のLOMナイトに招待し、各々の持つ価値観が影響を与え合うことを理解し、それぞれの存在を大きく発展させる、互いを高め合うより良い関係を築き上げてきました。さらに、国際渉外委員会でJCI及び日本JCの褒章事業へのエントリーの調整と資質向上を図り、自分自身の活動を俯瞰的に見つめなおし、様々な人びとが公のために貢献してきた想いを共有し、成し遂げた成果を現在や未来へと引き継いでいく責任感を湧き立たせ、そして、より良い変化の起点となるメンバーを増やし続けてきました。

渉外室の「自らより良い変化の起点となろう！」というテーマのもとに事業を行い、より良い未来を創造する原動力となるメンバーを溢れさせ、「心」あるまち大阪を実現することが出来ました。

国内渉外委員会

Domestic Public Affairs Committee

■ 基本方針 自らが変化の原動力として組織を力強く牽引していくこ う！！

より良い未来を創り出す組織の一員であることを自覚し、あらゆる機会に能動的に取り組み、他者の成長を自らの喜びとする心を携え、互いの成長に向け切磋琢磨する関係を築き、自らが変化の原動力として組織を力強く牽引するメンバーを溢れさせます。

■ 事業報告

1. 京都会議

事業の内容	日本JCへの出向者支援並びに連絡調整 日本JC事業への参加促進
実施日時	1月17日(木)～20日(日)
場所・会場	国立京都国際会館
参加人数	計画:280名 結果:300名
実施方法の工夫	フォーラムや各種セミナーのスケジュールをホームページや委員会MLを利用しより多くのメンバーの参加を促進しました。
事業目的に達した点	LOMナイトを開催し、出向者紹介することで、出向者メンバーの成長をメンバー全員で認識し、また他者の成長を喜び合い、そして自らも喜びとする心を携える事となりました。また、多くのメンバーに各種セミナーフォーラムに参加して頂き、日本JCが目指すべき方向性を認識してもらう場となりました。
事業目的に達しなかった点	出向者に対して、何が支援になるかをより多くのメンバーに周知してもらうように工夫する必要があります。

2. サマーコンファレンス

事業の内容	日本JCへの出向者支援並びに連絡調整 日本JC事業への参加促進
実施日時	7月19日(金)～21日(日)
場所・会場	パシフィコ横浜他
参加人数	計画:400名 結果:395名
実施方法の工夫	LOMナイトで出向者支援バナーに一言書いて頂くことで、それを見た出向者が組織から応援されて出向しているという意識を持っていただきました。
事業目的に達した点	LOMナイトを開催し、出向者紹介することで、出向者メンバーの成長をメンバー全員で認識し、また他者の成長を喜び合い、そして自らも喜びとする心を携える事となりました。また、16を超えるフォーラム・セミナーにご参加いただき、国家との「つながり」を実感し、問題意識を共有することで関心を意識に変えた私たちの決断が日本を変えていく原動力となり得ることを実感することができました。
事業目的に達しなかった点	出向者支援に関しては、委員会や懇親会の場にて激励はできましたが、LOMナイトの開催時間が、各フォーラムと同時開催等の為、出向者の方で参加できない方がいたのが残念です。開催時間をよく精査する必要があります。

3. 近畿地区宇治大会

事業の内容	日本JCへの出向者支援並びに連絡調整 日本JC事業への参加促進
実施日時	7月13日(土)
場所・会場	山城総合運動公園
参加人数	結果:120名
実施方法の工夫	大懇親会では、『良心の循環』をテーマに掲げ、食を通じたコミュニケーションを図りメンバー同士の繋がりを感じていただきました。
事業目的に達した点	JCI大阪ブースのお手伝いを頂くことで、主体者として役割を果たす前向きな行動力を育んでいただきました。
事業目的に達しなかった点	無し

4. 全国大会奈良大会

事業の内容	日本JCへの出向者支援並びに連絡調整　日本JC事業への参加促進
実施日時	10月3日(木)～6日(日)
場所・会場	なら100年会館他
参加人数	計画:400名 結果:335名
実施方法の工夫	LOMナイトの中で、出向者を代表して、本年度を振り返りお話をしていくことで、出向しているメンバーの頑張りや活躍を知る機会とし、また、LOMナイト終了後、記念撮影を事前にプログラムとして組み込み、多くの参加者に最後まで残って頂くよう促すことによって、多くのメンバーによって出向者支援が行われていることの大切さを実感していただきます。
事業目的に達した点	LOMナイトを開催し、出向者紹介することで、出向者メンバーの成長をメンバー全員で認識し、また他者の成長を喜び合い、そして自らも喜びとする心を携える事となりました。また、2013年度の青年会議所運動の集大成を実感できる場となりました。
事業目的に達しなかった点	全国大会のLOMナイトでは、対象を出向者支援なのか、卒業生なのか対象を絞り込むのが大変難しく、シナリオの作成時に精査する必要があります。また、LOMナイト開催場所の選定を早急におこなう必要があります。

5. 岡山大阪交歓会

事業の内容	LOM間交流の推進
実施日時	5月24日(金)
場所・会場	KKRホテル大阪
実施方法の工夫	同じ目的のもとで日々奮闘している大切な仲間たちと共に互いの夢を語り合い、互いが成し遂げてきた成果をより深く知り学び合えるような交換会としました。
事業目的に達した点	互いに新しい価値観を見出し目標をより高く達成していく意欲を向上させそれが果たそうとしている取り組みをより大きな成果へと繋げていくことのできる有益な関係を築きあげることができました。
事業目的に達しなかった点	無し

6. 金沢大阪交歓会

事業の内容	LOM間交流の推進
実施日時	10月17日(木)
場所・会場	8G
実施方法の工夫	同じ目的のもとで日々奮闘している大切な仲間たちと共に互いの夢を語り合い、互いが成し遂げてきた成果をより深く知り学び合えるような交換会としました。
事業目的に達した点	互いに新しい価値観を見出し目標をより高く達成していく意欲を向上させそれが果たそうとしている取り組みをより大きな成果へと繋げていくことのできる有益な関係を築きあげることができました。
事業目的に達しなかった点	無し

私たち、国内涉外委員会は「心」あるまち大阪の実現を目指して、自らがより良い変化を生み出す起点となり組織を力強く牽引するメンバーを溢れさせていくことを目的とし様々な事業を展開して参りました。

1月の京都会議に始まり、5月の第42回となる岡山大阪交歓会、7月の近畿地区宇治大会、7月のサマーコンファレンス2013、10月の全国大会奈良大会、10月の金沢大阪交歓会2013と様々な担いを預かり、大阪青年会議所メンバーに日本JC事業の趣旨や参画意義をわかりやすく伝え、一貫した各種大会でのセミナー等の案内、LOMナイトの設営を行い、日本JCを身近な存在であることを知り参画してもらうことで、大阪青年会議所メンバーに一人ひとりがより良い未来を創り出す組織の一員であるとともに、自らが率先して何事にも取り組んでいこうとする前向きな行動力を育んでもらうことができました。また、各種大会のLOMナイトなどで日本JC、近畿地区協議会、大阪ブロックに出向頂いているメンバーの皆さんに、スポットライトがあたる場面を創り出し、大阪青年会議所を代表して出向頂く責任とLOMからの期待を感じ頂き、他者の成長をも自分ごとのように喜びとができる思いやり溢れる心を育んでもらうことができました。

そして、LOM間の交流を図るために本年度も岡山青年会議所、金沢青年会議所のメンバーの皆様と共に、地域は違えども明るい豊かな社会の実現を目指して運動を発信している同志として、JC運動に対する夢を語り合い成し遂げてきた成果をより深く知り学び会える機会を創り、互いに新しい価値観を見出し目標に向かってより高く達成していく意欲を向上させ、それが果たそうとしている取り組みをより大きな成果へと繋げていくことのできる有益な関係を築くことができました。

一年を通じて、大阪青年会議所メンバーに一人ひとりの前向きな行動力こそが何よりも組織の発展には必要だと伝え続け、自らがより良い変化を生み出す起点となり組織を力強く牽引するメンバーを溢れさせ、「心」あるまち大阪を実現することができます。

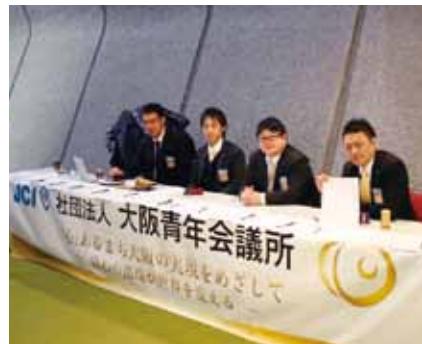


委員長

中谷 誠

STAFF

幹事	副委員長	委員	黒田 健夫	徳永 智也	藤尾 雄一	山廣 昌司
奥野 誠司	坂口 雅俊	泉 一樹	黒松 宏吏	中村 佳織	舟越 史明	山村 祥行
中尾 浩	長岡 泰史	伊藤 良夏	坂本 貴徳	中村 宣嗣	松本 俊幸	米村 栄一
西口 司朗	松本 篤志	植松 康太	瀬木 豊	東 壮一	丸富 成日	若松 耕三
藤波 寛	山田 憲一	大谷 賢二	築山 邦男	久田 哲生	山内 宰祐	渡辺 克哉
	吉田 直人	亀井 正智	徳留 雄司	久留 篤	山出 敬太郎	



国際涉外委員会

International Public Affairs Committee

■ 基本方針 社会の一員としての役割を全うする気概を携えた次代を担う人びとを溢れさせます。

世界の同じ志を持つ仲間たちと共に通する目的に向かう意識を持ち、自身の視野を広げる意欲を抱き、公に貢献する想いを分かち合う気概に溢れ、互いをより良く高め合う有益な関係を築き、JAYCEE としての誇りを携えたメンバーを増やしていきます。

■ 事業報告

1. JCI セミナー

事 業 の 内 容	JCI大阪のメンバー皆様にロバート議事法やプレゼンターの向上、JCの存在などのセミナーに参加を促進
実 施 日 時	1月21日(月)～12月20日(金)
場 所 ・ 会 場	全国各地
参 加 人 数	計画:JCI大阪メンバー:50名 結果:JCI大阪メンバー:85名
実 施 方 法 の 工 夫	あらかじめ各セミナーコースの内容を案内し、受講されるメンバーの皆様に日程を伝え、毎月各地区で行われるセミナーに参加を出来る様に調整を致しました。
事業目的に達した点	JCIセミナー受講後、JCが何のためにあるのか分からない、自分の成すべきことが見えない、人前で上手く話せない、リーダーになるにはどうすればいいのかなどの悩みを解決して頂くことが出来ました。 又、受講されたメンバー自身の方々がリーダーとなりトレーナーを目指すきっかけを作ることが出来ました。
事業目的に達しなかった点	開催地や参加地区の場所が大阪を中心とする、関西が多くなり、全国一円に拡げ受講する回数が少なかった為、同じ思いを持つ他LOMのたちとの新たな出会いを作る機会を増やすことが出来ませんでした。

2. シスター JC

事 業 の 内 容	台北JC、JCIサンパウロ、JCIベルリン、JCIヴィクトリア、JCIウランバートル、JCIプロンパンと会員同士の相互理解や友情を国際的な感覚を養う事業
実 施 日 時	6月14日(金)・11日8日(金)
場 所 ・ 会 場	韓国 グワンジュ・ブラジル リオデジャネイロ
参 加 人 数	計画:JCI大阪メンバー:300名／シスターJC:30名 結果:JCI大阪メンバー:218名／シスターJC:52名
実 施 方 法 の 工 夫	JCI大阪のメンバーと海外のメンバーが深く交流を図る為、言葉が障害にならないように共通して取り組めることを行いました。また、海外メンバーを振り分けて多くのJCI大阪のメンバーと交流が出来る様にしました。
事業目的に達した点	シスターのメンバーと交流が深まり、多くのコミュニケーションを取り中で、JCI大阪のメンバーに国際的な感覚を養っていただきましたが出来ました。
事業目的に達しなかった点	現地での不手際もあり、大阪の文化や風習を伝えきることが出来ませんでした。

3. ASPAC

事 業 の 内 容	国際青年会議所(JCI)が開催し、日本JCが所属するエリアBで行われるエリア会議に参加をし、個と個の交流や有益な情報交換を行う為の参加促進
実 施 日 時	8月25日(日)
場 所 ・ 会 場	韓国 グワンジュ
参 加 人 数	計画:JCI大阪メンバー:140名 結果:JCI大阪メンバー:181名
実 施 方 法 の 工 夫	エリア会議・世界会議の中で行われる総会やファンクションの内容を参加者マニュアルに記載をし、大会の内容をより解りやすくしました。又、現地の文化や風習などの情報を伝え参加の促進に繋げました。
事業目的に達した点	自分達の進むべき方向や運動を再確認して頂き、今後のJC運動に対し取り組む意欲を高めてもらうことができました。
事業目的に達しなかった点	参加人数が当初の見込みより増員になりました。

4. 世界会議

事業の内容	JCI事業の世界会議に参加をし、個と個の交流や有益な情報交換を行う為の参加促進
実施日時	11月6日(水)～9日(土)
場所・会場	ブラジル リオデジャネイロ
参加人数	計画:JCI大阪メンバー:80名 結果:JCI大阪メンバー:80名
実施方法の工夫	エリア会議・世界会議の中で行われる総会やファンクションの内容を参加者マニュアルに記載をし、大会の内容をより解りやすくしました。又、現地の文化や風習などの情報を伝え参加の促進に繋げました。
事業目的に達した点	自分達の進むべき方向や運動を再確認して頂き、今後のJC運動に対し取り組む意欲を高めてもらうことができました。
事業目的に達しなかった点	参加人数が当初の見込みより増員になりました。

5. アワード

事業の内容	JCI及び日本JC褒章事業へのエントリーの調整
実施日時	2月20日(水)～10月10日(木)
場所・会場	大阪青年会議所事務局
参加人数	計画:2012担当者:40名 結果:2012担当者:40名
実施方法の工夫	アワード勉強会を行い、講師に佐藤先輩をお呼びし取り組んできた事業の報告をより解りやすく伝える為に勉強会を行いました。
事業目的に達した点	ASPACEでは、最優秀経済開発プログラム部門では受賞をし、世界大会では最優秀OMOIYARIプロジェクト部門で受賞をすることが出来、大阪青年会議所の運動を広く伝えることが出来ました。
事業目的に達しなかった点	日本語から英訳のスキルの向上をすることが出来ず、大阪青年会議所の運動を広く伝えることが出来ませんでした。

私たちは、本年度「心」あるまち大阪の実現をめざして、JCIの行う事業に積極的に参加をして頂き、自らの視野をさらに拡げて JAYCEE としての誇りを携えたメンバーを増やすことを目指しました。

本年度は、「世界中の JCI メンバーと交流を深めよう!」を目標に事業を進めて参りました。ASPACE や世界会議事業では総会や各ファンクションに参加をして頂き JCI を身近に感じて貰い、自分たちが国際的な組織に帰属する一員であることやこれから進むべき方向性を確認して頂くことが出来ました。又、シスター JC との交流は JCI 大阪の行うロムナイトやロムランチョンにお招きをし、韓国で行った屋台懇親会やブラジル・リオデジャネイロのコパカバーナ海岸で行ったビーチバレー大会に参加をして頂き、お互いの友情を深めることが出来、国境を越えたつながりをフェイスブックやラインを通じて国際的な交流を増やして頂くことが出来ました。海外からは、台北公式訪問や来訪 JC があり、シスターとしての取り組み方やお互いの報告を行い滞在期間中で大阪のまちや文化を学んで頂くことが出来ました。JCI 及び日本 JC の褒章事業では一年を通じてアワード勉強会を行い、ASPACE では最優秀地域開発プログラム部門のキャッスルハッスル、世界会議では最優秀 OMOIYARI プロジェクト部門で PCY 事業である a peace of peace の受賞が出来、自分たちが取り組んできた事業の成果を世界中に発信することが出来ました。そして、各全国各地で行う JCI セミナーに多くのメンバーの皆様に参加をして頂き、これからの JC 運動につながる自らの視野を拡げて頂くことが出来ました。最後になりますが、本年度の行った国際的な交流が今後も更に発展していくことを楽しみにしております。本当に一年間、心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。



委員長

大西 直

STAFF

幹事	副委員長	委員	延堂 修一郎	熊谷 知哉	曾田 太郎	畠山 裕美	山田 秀明
内本 明伸	安藤 利江	足立 崇	大内 一孝	小寺 陽平	田中 大介	日根野谷 裕一	吉田 延祐
岡本 仁志	井上 紗	新居 壮治	太田 光治	塙津 立人	辻 直孝	古田 久統	
友藤 忠昭	田儀 利明	池田 敬	川上 碓	塙山 知之	徳久 健作	星山 樹賢	
藤重 智明	福田 宏清	石丸 健	河田 英之	白川 将之	長井 雅開	道野 弘済	
	藤井 章弘	今田 晴久	橋高 和芳	杉山 一穂	能勢 善男	森岡 久晃	





総務室

General Affairs Office

個性を輝かせて進化する組織へ！

資質向上委員会

- 月例会

総務財政委員会

- 新年名刺交換会
- OB現役交歓会



室長

津和 邦嘉

本年度は、常任理事 総務室 室長として「個性を輝かせ進化する組織へ！」をテーマとして掲げ、「心」あるまち大阪の実現に向かって1年間邁進してきました。

私たち総務室は、未来を切り拓くという志を持つすべてのメンバーが結束し、互いに切磋琢磨する有益な繋がりを持ち、果たすべき役割に対して明確な目標を定め、理想のまちの実現に向けて弛まず行動し続ける時代を牽引する組織を構築するために、一人ひとりが心に想い描くまちのあるべき姿を繋ぎ合わせ、互いを支え高め合う発展的な関係を築き上げ、自らへの見返りに期待せず他者のために行動し続け、前向きな姿勢で妥協することなく与えられた責任を全うするメンバーを増やし続けていくことを目的として、資質向上委員会と総務財政委員会の2つの委員会で運動を展開してきました。

資質向上委員会では、山本理事長が掲げる目標を組織全体で共有し、理事長所信に基づいて1年間の月例会テーマを掲げ、日本国内だけではなく世界でも活躍している著名人を講師としてお招きし、また、例年と違い月例会の中でメンバープレゼンなども開催して、メンバーの資質向上へとつなげ、より良いまちの創造に有益なメンバーの一体感を高めてきました。さらに、自らが果たす役割を一人ひとりが認識し、未来に向けてそれぞれが有する全ての力を発揮するために、まるわかりJCを進化させた、「やるっきゃないで書」を作成し、また、「良心の循環」をテーマとした会員大会を開催して、1年間を通じて運動の成果を現役・特別会員と共有して、自身の成長が組織の成長へと繋がることを確信して行動する高い志を確立できました。

総務財政委員会では、組織を牽引していく要として、まずは、現役・特別会員との交流を深めるために、新年名刺交換会やOB現役交歓会を開催し、先人たちが常にまちを想い人びとの心を動かしてきた歴史を知り、思いやりの心をもってまちの創造に尽くすメンバーの行動力を育むことができました。また、脈々と培われてきた組織の財産を確実に次代へと繋げるために、組織運営にこだわり、スタッフセミナー・議案セミナー・会計セミナーを開催して、自分たちのまちは自分たちで創る気概と妥協することなく与えられた役割を果たし、より良い未来に向けて青年としての生きた証を刻み、次代を切り拓く礎となる「他者を想い、善悪を判断し、正しく行動する」心の環をまちに広げるメンバーを溢れさせることができました。2013年で発露した良心を次代へとつなげていきます。1年間有難うございます。

資質向上委員会

Quality Improvement Committee

■ 基本方針 他者を想い行動する心を繋いでいくメンバーを創り出します。

私たちは、組織が掲げるより良い未来を共に想い描き、自らが主体的に果たすべき役割を理解し、志を同じくする仲間と共に自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの成長を組織の大きな力へ発展させ、他者を想い行動する心を繋いでいくメンバーを創り出します。

■ 事業報告

1. 月例会

事 業 の 内 容	理事長の運動方針に沿ったテーマを掲げ、講師講演やメンバーによるプレゼンテーション、演劇、対談などにより主体者意識を高める機会であり、理事長の活動報告を聞く場もあります。
実 施 日 時	1月～11月 不死王閣・帝国ホテル大阪・ホテルニューオータニ・リーガロイヤルホテル大阪
参 加 人 数	計画:5,528名(平均60%)8月OB現役交歓会は除く 結果:4,910名(平均53.3%)8月OB現役交歓会は除く
実施方法の工夫	<ul style="list-style-type: none">毎月異なるテーマを掲げ、一方向の講師講演だけでなく、講師と参加者が意見を交換し合う討論型の講演や歴史上の人物を題材とした演劇の公演、本年度理事長と歴代理事長の対談も行いました。7月度月例会では、仲間の発言や行動に影響を受け共に高め合う場として、メンバー自身がJC活動を通じて得た経験について発表してもらうプレゼンテーション大会を開催しました。仲間の普段とは違う顔を知り、刺激を受けてもらうため、ビジネスブースや趣味の会ブース展示なども行いました。アンケートの記載内容・当日の学生の様子から、当事業が学生にとって気付きの場となり、自らが主体的に取り組む意識を高めることができたと判断します。PCY本事業に向けより高い意識をもって取り組んでもらえる下地ができたと分析します。
事業目的に達した点	本年度の月例会は、メンバーの主体者意識を高めることを目的として、リーダー、経営者、子どもを育てる大人、日本国民といった様々な立場の方をお呼びしました。毎回実施したアンケートでは、多くのメンバーが各月のテーマについて理解を深めてもらえたとの結果が出ており、参加者の主体者意識を高めるという点では目的に達したと考えられます。
事業目的に達しなかった点	平均出席率が当初目標の60%に届きませんでした。年初からスケジュールはほぼ決まっているので、メンバーの興味を惹くような講師や実施内容を早目に決め、委員会でPRするだけでなく、たとえば前月の月例会で案内するなどの周知が必要だと思われます。また、講師についてはメンバーの好き嫌いもあったり、予算上の制約もあるため、講師に囚われない工夫も行っていく必要があると考えます。

2. やるっきゃないで書。

事 業 の 内 容	組織に受け継がれてきた精神に触れ、大阪青年会議所メンバーであることの自覚と誇りを持ってもらうために作成した、スタッフやこれからスタッフを目指すメンバー向けのハンドブック。
実施方法の工夫	<ul style="list-style-type: none">副委員長、幹事、チームリーダーといった委員会におけるスタッフの役割を分かりやすく説明しました。メンバーがスタッフとしてどのようなポイントに気を付け、何を心がけて、どのように振る舞えば格好いいスタッフであるかイメージできるよう、委員会運営の事例や過去のスタッフ経験者の声を具体的にまとめました。
事業目的に達した点	作成したハンドブック「やるっきゃないで書。」をメンバー専用ホームページからダウンロード配布するとともに、メンバーALL、委員会MLを使用した配信を行うことで、より多くのメンバーに見てもらうことができました。また、11月の予定者スタッフセミナーでも資料として配布し、2014年度に向けてスタッフがやるべきことを理解してもらうことができました。

3. 会員大会

事業の内容 自らの運動の成果と証を分かち合い、互いを称える場であるとともに、卒業式として卒業生を送る場でもあります。

実施日時 12月5日(木)

場所・会場 リーガロイヤルホテル大阪

参加人数 計画:700名 結果:712名

- 実施方法の工夫
- 各委員会の一年間の事業活動を振り返る映像とともに、事業参加者が何を思い、現在の行動にどのような影響を及ぼしたかのインタビュー映像も上映しました。
 - アワードセレモニーでは、過去からの繋がりと賞の重みを感じてもらうために、過去の受賞者より最優秀賞を発表してもらいました。
 - 卒業式では、卒業生の一年間の活動を映像で振り返ってもらうとともに、卒業生一人ひとりのろうそくによる「心」のオブジェを創り上げ、これからもさらに良心を循環させていこうという気持ちを持ってもらいました。

事業目的に達した点 当初目標とした700名を超える、712名の参加があり、より多くのメンバーに、さらに良心を循環させていこうという気持ちを持ってもらうことができました。

私たちは、「心」あるまち大阪を実現するために、一年間を通じて、大阪青年会議所メンバーの資質を向上させる運動を展開してまいりました。月例会では、様々な立場における主体者意識を持つてもらうべく、毎月テーマを掲げ、講師講演だけでなく、講師と参加者が意見を交換し合う討論型の講演や演劇公演、本年度理事長と歴代理事長の対談も行いました。7月度月例会では、メンバー自身が自らの経験について発表してもらうプレゼンテーション大会を開催しました。また、スタッフ向けのハンドブック「やるっきゃないで書。」を作成しました。スタッフの役割を分かりやすく説明するとともに、何を心がけ、どのように振る舞えば格好いいスタッフであるか、事例や過去の経験者の声を交え、まとめました。会員大会では、運動の成果を再確認してもらうために、一年間の事業活動を振り返る映像とともに、事業参加者が何を思い、現在の行動にどのような影響を及ぼしたか語ってもらいました。また、アワードセレモニーでは過去からの繋がりとアワードの重みを感じてもらうために、過去の受賞者に最優秀賞を発表してもらいました。さらに、卒業式では、さらに良心を循環させていこうという気持ちを持ってもらうために、卒業生の一年間の活動の振り返り映像と共に、卒業生一人ひとりが登壇しながらろうそくによる「心」のオブジェを創り上げてもらいました。

私たちは、組織が掲げるより良い未来を共に想い描き、自らが主体的に果たすべき役割を理解し、仲間と共に自らの可能性に挑戦し、一人ひとりの成長を組織の力へ発展させ、他者を想い行動する心を繋いでいくメンバーを創り出し「心」あるまち大阪を実現しました。



委員長

小池 龍平

STAFF

幹事	副委員長	委員	大谷 耕司	赤代 理史	寺岡 龍朗	永本 傑秀	細川 祐介	宗川 暢一	吉岡 思利
粕谷 徳雅	乾 二起	浅井 太一	北本 武	鈴木 正敏	徳永 真介	林 慶人	本田 泰河	村川 貴史	吉田 義章
谷川 安徳	奥田 勇	井上 隆則	木村 友昭	竹内 孝博	鳥越 明子	畢 志鵬	牧 隆之	森西 聖	
羽根 享	河内屋英徳	今津 康夫	小谷 忠嗣	谷村 英高	中川 興一	藤岡 亮	増田 浩紀	森本 大吾	
矢吹 保博	澤田 英士	内之倉 彰	小林 英彰	玉山 審詞	中野 繁明	藤澤 泰子	丸山 浩介	柳本 謙	
	恒元 直之	大下 晶子	佐々 一樹	田村 俊浩	中本 憲一郎	細川 直人	三好 雅彦	山崎 新平	





総務財政委員会

General Affairs and Accounting Committee

■ 基本方針 より良い未来を切り拓いていく前向きなメンバーを溢れさせます。

私たちは、見返りを求める事なく主体的に行動を起こし、互いを思いやる気持ちに満ち溢れ、魅力的な組織の一員である自覚と誇りを持ち、理想のまちを創造する原動力となる財産を確実に受継ぎ、より良い未来を切り拓いていく前向きなメンバーを溢れさせます。

■ 事業報告

1. 新年名刺交換会

事業の内容 まちの先駆者としての豊かな経験や知恵、歴史ある組織の懐の深さを共有し、時代を力強く牽引する組織の活力の源となる強い責任感と積極果敢な行動力を育むことです。

実施日時 1月8日(火)

場所・会場 帝国ホテル大阪

参加人数 現役440名／OB193名

実施方法の工夫 各委員会やこの組織に関わる会が、年初に活動を始めるにあたり有効的に広めることが出来る場や個人が一年間の指針を作れる場を随所に創り、活動への意欲が高まるようにした。

事業目的に達した点 各委員会の事業を告知や組織に関わる会を告知することで、組織への新たな期待や、メンバー一人ひとりのつながりや未来に向けての行動力を育むことが出来た。

2. 池田会議

事業の内容 自らがリーダーとして、組織の方向性と果たすべき役割やその責任、それぞれの運動の効果的な推進や運営をより良くしていく知識を共有できる場を創り出すことで、組織に対する深い興味と愛着心を湧き立たせることです。

実施日時 1月12日(土)・13日(日)

場所・会場 池田不死王閣

参加人数 431名

実施方法の工夫 メンバー一人ひとりが参加するだけではなく、本会議での各箇所で役割を担っていただき、組織におけるそれぞれの役割と責任を果たすことへの理解を深めるようにした。

事業目的に達した点 各委員会の役割を担っていただいたことにより、開始前より多数のメンバーが集まり、本会議への期待感が高まった。

3.OB 現役交歓会

事業の内容 輝かしい歴史を築いてきた先人から伝統ある組織に脈々と受け継がれてきた想いを、世代を超えて活躍する者同士が様々な形で発展させる場を設けることで、組織に対する誇りと連帯感を高めることです。

実施日時 8月8日(木)

場所・会場 リーガロイヤルホテル大阪

参加人数 現役393名／OB133名

実施方法の工夫 本年度と次年度が公式の場で、初めて交わるこの機会に、各年度のカラーが随所に交差するように配慮し、未来への期待感を高めるようにした。

事業目的に達した点 OBと現役とが交わる貴重な機会を通して、本年度の事業の方向性、次年度理事長の挨拶、次年度理事候補者の紹介等から、組織に対する誇りと連帯感が高まった。

4. 理事会・財務審議会・総会の運営に関する準備と調整

事業の内容	一步先を見越した創意工夫を積み重ね、一丸となって力を合わせができる環境や組織の円滑な運営ができるようにすることで、自らが率先して行動していく意欲を高めることです。
実施日時	毎月
場所・会場	各箇所

実施方法の工夫 未来を見据えて、年初より各委員会からの議案が反映できるアジェンダシステムを導入しました。また、同時に過去に残る資産としてアーカイブできるようにもしました。

5. アニュアルレポートの作成

事業の内容 メンバー一人ひとりとの強固な繋がりと互いが支え合いで成り立っていることを理解できる組織の風土を創り出すことで、互いを思いやる気持ちをさらに浸透させていくことです。

実施方法の工夫 この組織の培ってきた財産をより多くの人びとに伝わるように、視覚的に伝わる写真などを増やし、一目で理解できるようにしました。

私たち総務財政委員会は、組織の要としてだけではなく、組織の潤滑油的な役割を担っていることも加えて、組織運営に関する準備と調整やOBとの関わりをもつ交歓会の企画と実施なども担い、より良い未来を切り拓いていく前向きなメンバーが溢れるように、運動を展開してまいりました。年初の新年名刺交換会、池田会議の設営及び運営から始まり、通常総会・臨時総会の運営及び準備、毎月の理事会・財務審議会の準備、OB現役交歓会の設営、理事選挙における投票準備、そして、2014年度の法人格変更に伴う準備など、力強く組織を牽引していく要として運営を行って参りました。新年名刺交換会、池田会議では、メンバー一人ひとりに役割を担えるように企画を行ったことで、組織への関心が高まり、参加者数の増加への一助、運動への理解を深めることができます。そして、本年度は、社団法人から一般社団法人へ変更するにあたり、様々な調整を行い、例年とは違う多くの総会を開催することになりました。その結果、準備が整い、2014年は一般社団法人としてスタート致します。さらに、組織を円滑に運営・進行していく上で、必要不可欠なルールを理解するためのセミナー・マニュアルの作成にも力を入れて参りました。最後に、年初より各会議体で行った議案ならび資料が円滑かつ敏速に配信できるようにアジェンダシステムを導入致しました。大阪青年会議所が培ってきた財産を未来に向けて確実に贈り継ぐことができるよう、それぞれの情報がアーカイブされていく機能も備えています。これらにより組織の運動がより力強く展開でき、より効果的に発信できる礎を築くことが出来たと思います。私たちが力強く牽引していく組織の要として、運動を展開して行った結果、理想のまちを創造する原動力となる財産を確実に受継ぎ、より良い未来を切り拓いていく前向きなメンバーを溢れさせることが出来たと確信しています。



委員長

岡部 倫典

STAFF

幹事	副委員長	委員	小坂井 智弘	力石 英治	福田 大輔	山本 紗鈴
木下 孝祐	阪野 由一	池田 健志	齋藤 優貴	中島 廉人	藤本 勝仁	横田 尚三
長友 憲	佐野 肇	大南 勝範	島村 真以	能村 晋太郎	宮崎 真典	吉田 幸司
柳 智也	田中 昌浩	芋木 太郎	下地 龍	土生 康晴	本村 優子	吉武 凉子
山田 浩介	津村 芳雄	川又 充	杉田 貴志	範倉美 口二郎	山口 直克	和倉 康博
	野田 智久	神島 聰介	田中 幸子	美藤 俊介	山本 恵理	渡辺 俊一





1月 13日

池田不死王閣

講師

落合 博満さん



7月 9日

帝国ホテル大阪

各委員会の代表メンバーによる3分間プレゼン大会



2月 6日

帝国ホテル大阪

講師

岩田 松雄さん

講演テーマ ミッション経営



8月 8日

リーガロイヤルホテル大阪

OB現役交歓会



3月 14日

帝国ホテル大阪

講師

いかりや 浩一さん
(故いかりや長介氏のご子息)



9月 20日

帝国ホテル大阪



4月 24日

帝国ホテル大阪

講師

西川きよしさん



10月 9日

ホテルニューオータニ大阪

北見敏之氏主催の劇団による演劇



5月 14日

帝国ホテル大阪

■ 北地域合同例会

講師

井上和彦さん



11月 14日

リーガロイヤルホテル大阪

近藤特別顧問と山本理事長の対談



6月 18日

帝国ホテル大阪

講師

京都大学大学院教授

宇佐美 誠さん



12月 5日

会員大会



日時：2013年12月5日 会場：リーガロイヤルホテル大阪



■ プレジデンシャルリリース伝達式





理事長特別賞

- 高橋秀智(大阪の未来創造委員会)
- 山田浩介(総務財政委員会)
- 国際涉外委員会

JC運動推進賞

- 田中有美子(会員開発委員会)
- 小島雅士(大阪の未来創造委員会)
- 津村芳雄(総務財政委員会)
- 子どもの良心育成委員会

国際交流推進賞

- 吉田 拓(子どもの未来創造委員会)
- 羅 富生(世界の良心循環委員会)
- 林 慶人(資質向上委員会)

優秀委員会賞

- JCI大阪発信委員会
- 国内涉外委員会

最優秀委員会賞

- 会員開発委員会

優秀事業賞

- 未来への原体験創造事業の企画と実施
(子どもの未来創造委員会)
- 未来選択事業の企画と実施
(まちの連携推進委員会)
- PCY事業の企画と実施
(世界の良心循環委員会)

最優秀事業賞

- まちの良心循環事業の企画と実施
(まちの良心循環委員会)

優秀会員賞

- 井上 誠(JCI大阪発信委員会)
- 原 有佳里(子どもの良心育成委員会)
- 川崎勝郎(親子の「心」育成委員会)
- 早川久美(まちの連携推進委員会)
- 金澤 学(大阪の未来創造委員会)
- 吉田直人(国内涉外委員会)
- 田儀利明(国際涉外委員会)
- 佐野 肇(総務財政委員会)

最優秀会員賞

- 山本修史



優秀新人賞

- 小淵隆大(子どもの未来創造委員会)
- 田中良明(まちの良心循環委員会)
- 吉瀬 異(大阪の未来創造委員会)
- 奥野誠司(国内涉外委員会)
- 友藤忠昭(国際涉外委員会)
- 矢吹保博(資質向上委員会)

最優秀新人賞

- 吉井雅俊(会員開発委員会)

優秀出向者賞

- 鈴木あかり(会員開発委員会)
- 梶川健介(子どもの良心育成委員会)
- 関口正輝(まちの良心循環委員会)
- 長村みさお(大阪の未来創造委員会)
- 杉山一穂(国際涉外委員会)
- 森西 聖(資質向上委員会)

最優秀出向者賞

- 本岡佳小里(JCI大阪発信委員会)

功労賞

- 赤阪靖之
- 大西 直
- 北野嘉一
- 草刈健太郎
- 小池竜平
- 善野 良
- 高橋康智
- 谷間真裕
- 出口貴之
- 中川晃一

- 中村 渉
- 山本修史

月例会多年皆出席賞

【2年間】

- 青木香織
- 赤阪靖之
- 高橋康智
- 中森 章
- 山本修史

【3年間】

- 加藤伸隆
- 中村 渉
- 早川久美

【4年間】

- 北野嘉一
- 中川晃一

【5年間】

- 大西 直

【7年間】

- 岸 翳展
- 草刈健太郎



■ 2013年度 主なメディア掲載

日付	ジャンル	媒体名	見出し・内容
6月14日	TV	NHK ニューステラス関西	NMB のメンバーが推進リーダーに
6月14日	TV	朝日放送 キャスト	青年会議所「選挙に行こう！」呼び掛け
6月14日	web	毎日 j p	大阪青年会議所：参院選投票呼びかけ NMB メンバー起用
6月14日	web	MSN 産経 west	NMB48 メンバー、「選挙にいったんで！」プロジェクトのリーダーに
6月15日	一般紙	朝日新聞	参院選挙いこう リーダーは NMB
6月15日	一般紙	読売新聞	参院選 NMB 1票を大切に
6月15日	一般紙	産経新聞	ネット選挙解禁で「投票率向上」半数
6月15日	スポーツ紙	日刊スポーツ	NMB 山田菜々「1票の大切さを感じた」
6月15日	スポーツ紙	スポーツ報知	投票に行こう！ 山田 NMB 村上
6月15日	地方紙	大阪日日新聞	参院選投票啓発に一役 NMB の 2 人を擁立 大阪青年会議所
6月15日	web	MSN 産経 west	半数が投票率向上に期待 ネット選挙、大阪 JC 調査
6月15日	web	朝日新聞デジタル	「次の選挙は参院選だよ」NMB48 が投票呼びかけ
6月17日	地方紙	大阪日日新聞	NMB48 山田さん、村上さん “参院選啓発推進リーダーに”
6月20日	一般紙	日本経済新聞	若者・政治つなぐ場を
7月3日	一般紙	毎日新聞	岐路の夏 NMB も盛り上げる うめきた 立候補予定者討論会
7月3日	スポーツ紙	スポーツニッポン	NMB 山田＆村上が参院選 「投票しよう！！」
7月3日	web	サンスポ.com	投票してや～！ NMB 山田菜々ら討論会に登場
7月3日	web	スポニチアネックス	NMB 山田菜々＆村上文香 参院選投票呼びかけ
7月4日	web	東スポ WEB	主催者側は大満足だった「NMB ファン暴走」
7月6日	TV	関西テレビ スーパーニュース	河川敷の“問題”解決のため 淀川でコスモスの種まき
7月6日	TV	関西テレビ FNN スピーク	淀川河川敷でコスモスの種まき
7月24日	一般紙	読売新聞	大阪 JC 新理事長内定
8月22日	地方紙	大阪日日新聞	「食」で異文化学ぶ 大阪 JC 交流事業
8月26日	業界紙	電気新聞	エコ提灯並ぶ、道頓堀の夏
1月18日	一般紙	毎日新聞	夢見つけるきっかけに 社会人招き出前授業

新聞・Web掲載

「孫」とふれあい 授業楽し



キラッピシニア
社会人講師事業

豊富な経験伝えて

参加料募集
「手作りおもちゃ」で、おもちゃ作りの楽しさを学びながら、おもちゃ作りの経験を伝えます。おもちゃ作りの経験を伝えます。

読売新聞夕刊 5月31日 社会人講師事業



大阪に新スポット続々 花と緑あふれる街へ

探Q

サンケイリビング新聞 5月30日 「花は咲く」プロジェクト

産経新聞 7月4日 「選挙にいったんで！ プロジェクト」

スポーツ報知 7月3日

Web・毎日選挙 7月2日

週刊大阪日日新聞 3月9日
理事長・2013年の展望

ネット選挙解禁で 「投票率向上」半数

産経新聞 6月15日 「選挙にいったんで！ プロジェクト」

「食」で異文化学ぶ

大阪JCI
交流事業 外国学生と共同調理

大阪日日新聞 8月22日
国際交流事業



▲ライトアップされた約1500基の提灯が飾られた川沿いは、風情ある雰囲気が漂う

エコ提灯並ぶ、道頓堀の夏

おひな祭りの提灯
列島 様様

電気新聞 8月26日
道頓堀川万灯祭

おおさか

きなびやの
屋

社会人招き出前授業

夢見つけるきっかけに

大阪市立大道南小学校

クラスの商業的な使い方について説明を受ける子どもたち＝大阪市立大道南小学校

毎日新聞 1月18日 社会人講師事業

大阪市長杯わんぱく相撲大阪市大会
小さな一歩が未来を拓く！育もう孩子の心！育てよう豊かな心！

親子フェスタ
「あかし」の経営もあるよ！
オンライン登録受付中

5.12日 ㈰

参加無料

親子相撲
親子のスピニング
親子ストラップ
親子の想い
自分の名前の由来を聞いてみよう！

5月12日(日)会場／大阪府立体育会館

わんぱく相撲ホームページ
<http://wanpaku.osaka-jc.or.jp/>

ご注意事項

JCI 他団体 大阪青年会議所

わんぱく相撲大会ポスター

Peace Conference 2013

開催が協議する持続発展可能な平和を目指す

2013.08.25 (日) 14:00-17:30 (会場:JCIホール)

URL: <http://pcy.osaka-jc.or.jp/>

ピースフェスティバル

14:00～ 運営委員会による開会式・発表会
総勢40団体による出展ブース
15:45～ メインフォーラム
PCYプロジェクト代表によるパネル発表
「PCY事業の成果」発表

基調講演

14:30～ 総合司令官・内閣府大臣
ソマホン・ルフィン氏
「日本人の心が世界を変える」

JCI 他団体 大阪青年会議所

PCY チラシ

制作物



TOYP チラシ



「選舉にいったんで！ プロジェクト」
特設ホームページ



淀川「花は咲く」プロジェクト
特設ホームページ



キッズチャレンジ
特設ホームページ



OSAKA キャッスル☆ハッスル 2013
中吊り広告



OSAKA キャッスル☆ハッスル 2013
パンフレット



OSAKA キャッスル☆ハッスル 2013
キャップキャップポスター



山中樹齋



編集後記

2013年度、社団法人大阪青年会議所は、山本樹育理事長の掲げる“「心」あるまち大阪の実現をめざして”をスローガンに様々な運動を開催しました。このアニュアルレポートは、その1年間の活動をまとめたものです。私たちの運動の成果を多くの皆様に見ていただき、JC活動への理解を深めていただければ、という思いで編集しました。各委員会の活動がわかるよう、写真を多く掲載しています。

次年度以降もさらに多くの方にご協力をいただき、JC活動を広げていければ幸いです。

1年間、我々の運動にご理解をいただき、様々な事業や活動を支えていただきました、大阪市をはじめとする行政機関・関係諸団体・企業・市民のすべての皆様にお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

総務財政委員会 委員長 岡部倫典

企画・編集 総務財政委員会

発 行 社団法人 大阪青年会議所

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番30号オーフ4番街401号

TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163

<http://www.osaka-jc.or.jp>

発 行 日 2014年3月 制作／株式会社どりむ社 印刷／株式会社恒和プロダクト

Annual Report 2013

JUNIOR CHAMBER
INTERNATIONAL OSAKA

<http://www.osaka-jc.or.jp/>



携帯電話



スマートフォン